

Yamaha News

ヤマハニュース 1993 No.365
NOVEMBER

第30回東京モーターショー・レポート

ヤマハモーターサイクルへ熱い眼差し!

来場者ウォッチング&販売店インタビュー

JOG **Aprio** アプローチガイド

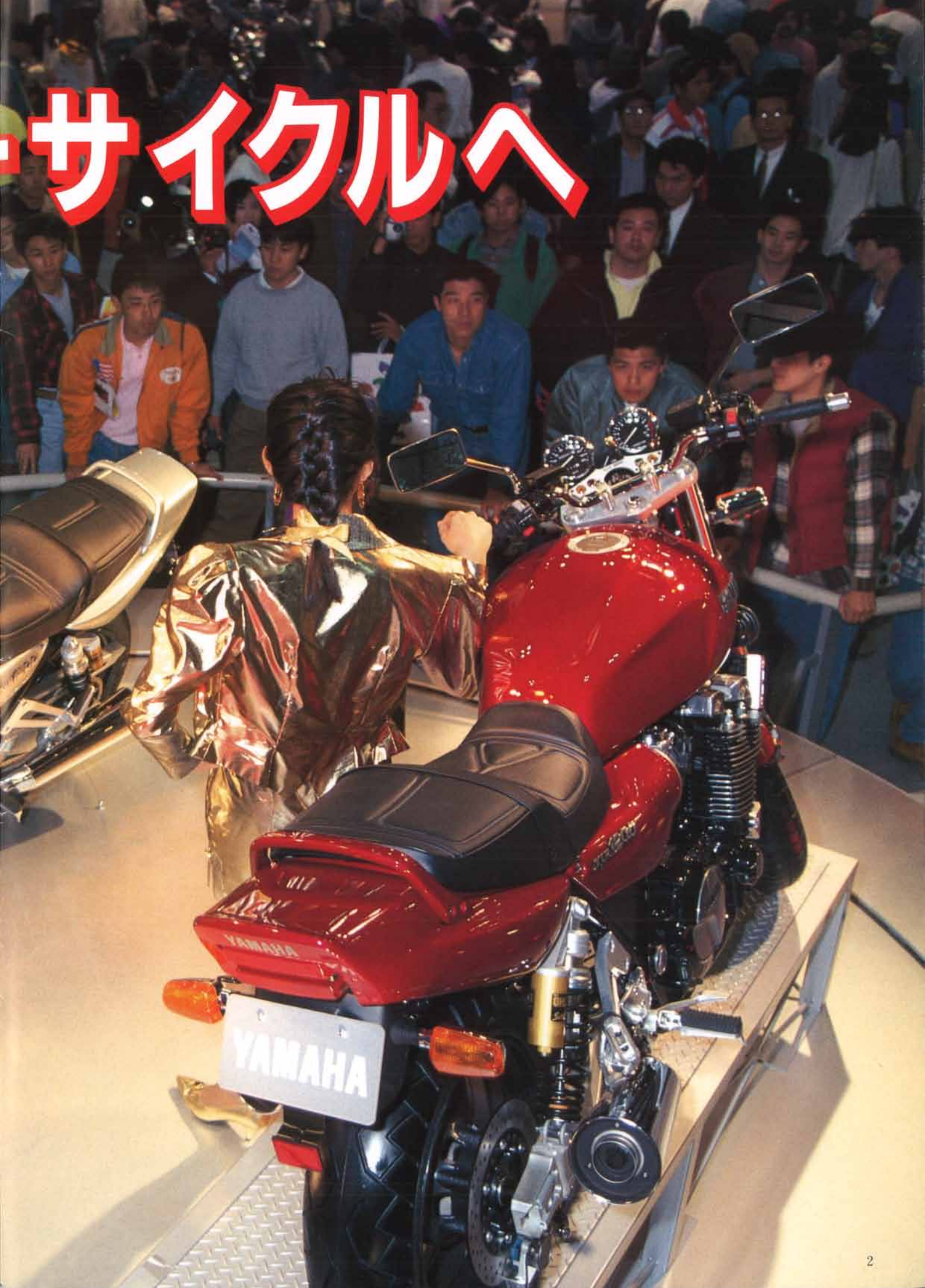
スクーターに新風

登場間近! ジョグアプリオ

巻末特集

11/12 月号

サイクルへ



特集 第30回東京モーターショー・レポート

ヤマハモーター 熱い眼差し!

来場者ウォッチング&販売店インタビュー



XJR

1200に、TT250Rラリーレイドスペシャルに、そして、世界初の電動ハイブリッド自転車ヤマハ パスにスポットライトが当たる。熱い眼差しが集中する。

東京モーターショー。ヤマハブース「感動のフィールドへ」。噂のマシンとの出会い。フリー空間での触れ合い。ヘッドフォンによるサウンド体感…。好奇心と熱気。上がり放しだったブースのボルテージ。

今号の特集は、181万600人の来場者の中からヤマハモーターサイクルに寄せるおもいを聞き取った。そして販売店主さんには、'94年に向けたアプローチにまで踏み込んでもらった。



1 954年の第1回全日本自動車ショー以来30回目を迎える「東京モーターショー」。会場内は連日例年どおりの人、人、人。今回10月23日から11月5日までの一般公開で、延べ181万人が千葉県・幕張メッセに足を運んだ。

そして、相も変わらぬ華やかさ。深刻な深まりを見せる不況の影も、この中で忘れてしまいうるほどだ。

もちろん、ショーテーマに掲げられたことは「EVOLUTION」(Ecology生態学+Evolution進化、Economy経済+Revolution変革)の意味を込めた造語が象徴しているように、当面あるいは将来解決すべき課題を各出展者が十分踏まえての開催ではあるが、それだけにむしろ日本のモーターゼーションの未来を占う一大イベントとして、より豊かで魅力的な世界を演出しようとし、来場者もそれを期待していたのかもしれない。

そんななかでヤマハは、合計44機種51台を出展。'91年同様「感動のフィールドへ」というテーマで、個々のモデルが持つ魅力、イメージ、世界観を、よりストレートに表現しようとした。

ブースの中心に新開発のXJR1200を据え、周囲にXJR400とVMAXのスペシャルバージョンといったネイキッドマシン群、GTS1000A。そしてその対向にはTT250Rライー仕



様などのオフロードバイク。さらにはブースの外側を取り巻くようにTZM50RやTZR250R・SPなどロードレーサーレブリカ群とワークスロードレーサーを配する。

ヤマハがめざす理想のモーターサイクルワールドを、カテゴリーごとに並べたマシン1台1台を通して感じ取ってもらえたら……。そんな願いを込めての展開である。

加えて、現在のヤマハワールドを表現する市販モデルもすべて「おさわりコーナー」に集約されているから、やや大げさに言うなら、ここはヤマハの現在と未

'94 ヤマハ

第30回東京モーターショー来場者アンケート

来場者プロフィール

ヤマハブースを訪れ、アンケートにに応じていただいた方の中から無作為に100名分をサンプルとした。

- 性別/男：女=87：13
- 年齢/男性平均22.2歳 女性平均22.2歳
- 免許の有無/有：85% 無：13%
- 所有車メーカー (下記グラフ参照)

最も注目したバイク

モーターショーという場所柄、平均年齢が若く、スポーツ車中心のコメントが多かった。さらに、全出展車中の注目車でヤマハ車が多数を占めているのは、ヤマハブースでのアンケート調査ということ割り引いて考えたほうがよさそうだ。

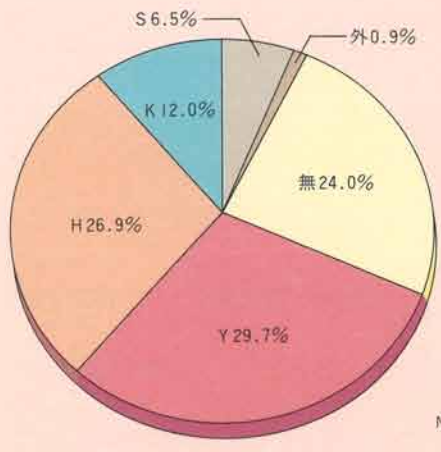
それでも、目を引くのはXJR1200、VMAX、NR750、GTS1000Aなどのビッグバイク人気。特に、ヤマハの参考出品車XJR1200は狙いどおりダントツの票を集めた。

また、数こそ少ないながら、小型車のなかで

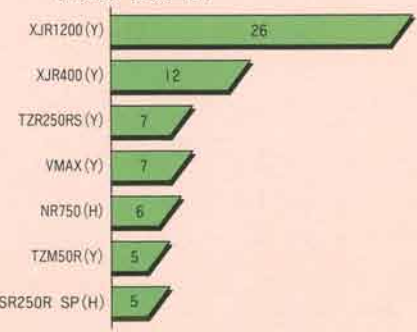
は新動力源を模索するホンダES21(試作車)や、実用化に踏み切ったヤマハPAS、そして参考出品のTZM50Rなどが高い支持を得た。

では、何を基準に注目車を挙げたか? という理由では、「デザイン、カッコよさ」つまり外観が圧倒的多数。次いで、「買いたいと思っている」「新しさ」など。

注目度No.1のXJR1200については、「カッコいい、迫力がある、大きい」など。ただし、「二番煎じ、他車と似てる」といった批判もあった。



Q1: 全出展車のうち最も注目したバイクは? (100名/複数回答)



Q2: ヤマハの出展車で最も注目したバイクは? (100名/複数回答)





見えてきた!

ヤマハのイメージはやっぱり 「2スト」「レース」でも……

来が一望のもとに見渡せる場所なのだ。そこです。ヤマハブースを訪れた人たちがヤマハに対して持っているイメージについてたずねてみた。

「2スト! ちよつと前までR11Zに乗ってたけど、速さ一辺倒じゃなく、2ストらしいメリハリのある乗り味っていうのかな。操る楽しさ、おもしろさがあるよ、ヤマハの2ストバイクには(岩方 和洋さん/22歳/会社員)

「レーサーレブリカが得意なメーカー。速い。やっぱりレースの影響だよな(工藤 善幸さん/19歳/アルバイト)といった声に代表されるように、最も多かったのは、2ストのヤマハ「レース」のヤマハだった。

また、バイク以外の要素から楽器やマリンスポーツをあげる人も多く、そこからつながるのか、繊細、オシャレ、女性的といった意見もあった。

よく言われる男っぽさ、女っぽさという点では、自分が乗っているバイクに大きく左右されるらしく、VMAXのオーナー(近藤進さん(22歳/アルバイト))は「力強く、男らしい。VMAXこそヤマ

ハのイメージ」だし、カワサキZX10に乗る鈴木勝利さんは「スリムだが骨太さがヤマハにはない」と断じる。

そうすると「空冷4ストロークネイキッド最強」を旗印に掲げる今回のメインキャラクター「XJR1200」は、彼らにとってどんなバイクなのだろうか。

そのXJR1200。注目度は二輪コーナーでもまちがいないくトップクラス。別記のデータからもそれは読み取れる。

「さすがヤマハ! 迫力ある。はっきり言って、欲しい! サイドカバーからタンクにつながるラインが最高だよ(近藤進さん) カワサキ派の鈴木勝利さんさえ、「カッコイイね。走らせれば相当速そうだし、エンジンのデザインはネイキッドNo.1。オーリンズのサスとか、お金がかかっていそうだし……」と声を弾ませた。

このほか、話を聞く人ごと、XJR1200待望論は枚挙にいとまがない。ただひとつ難点をあげるとすれば、ゼファー1100やCB1000SFに一步先んじられた後発モデルだけに、ヤマハの独自性を主張しにくいこと。

「ヤマハには我が道を行ってほしい。思い入れがあるから。同じビッグバイクでも、VMAXのようなオリジナリテイあふれるものが作れるはず(近藤進さん)」「同じネイキッドなら、得意の2ストで行くべき(鈴木勝利さん)」



おお！XJR1200 らしくない！なんて言わせない

つまり、ヤマハラしくないといいながら、意見も当然出てくる。

しかし、考えてみると、今回たまたまシヨ一の目玉に2ストスポーツや斬新なスタイルのモデルがなかっただけで、ヤマハラがそれを捨てたわけではなく、幅広あるヤマハワールドのなかで、好調XJR400に続くビッグマシンが今回のメインモデルになったということだ。

逆に、XJR1200の注目度が高いからこそ、こんなことが気になる人もいる、とはほめ過ぎだろうか。

さて、そうすると肝心のTZR250 R・SPやTZM50Rが並ぶレプリカコーナーはXJRの引き立て役か、というと、そんなことはない。

「テレコールドカラーのTZM50R、カッコイイね。TZR250RとかTZR50も原田レプリカでそろえたらいいのに」
(工藤善幸さん)

「ミニバイクレースがやりたくて、TZR50とかNSR50を買おうかと思ってたけど、TZM50R、カッコイイし速そうだよ。迷っちゃうな(杉山健一郎さん/16歳/高校生)など、YSR50の後継モデルとして期待感はずばる。

その分「TZM50Rを発売するつもりならもつとミニバイクレースに力を入れてほしい。昔はたくさんあったのに……せひまた盛り上げて、今度こそ長く続けられなきゃね」と話す。

決してレース自体がなくなったわけ

はないが、No.1カップの頃とは違うし、TZ50、TZR50の例もある。カギはミニバイクレースの取り組みにありそうだ。それ以外では、他メーカーと比べて、「ヤマハはユーザーとの距離が近い。遊びがたくさんあるね。YESSのおかげだと思ふ」(近藤進さん)

「YRSは大歓迎！もつとやってほしい。それと、チャレンジ3000キロをもう1度復活させてほしい(柴山勝さん/25歳/バイクショップ)など、ソフト面の充実ぶりが好評だ。ヤマハラしさのひとつといえるだろう。

一方、2ストロークスポーツを代表するTZR250Rは、NSR250Rと人気を二分しているながら、グランプリでマシンのパワー不足を指摘されたのが響いているのか、やや分が悪い。

レーサーはともかく、市販車レベルでの性能は、プロダクションレースをみる限り対等以上の成績で証明しているはずだが、一般にはほとんど知られていない。WGPや全日本だけでなく、地方選手権やスーパーカップなどの情報も店頭で有効活用できれば、きっとTZR250Rの取扱につながり、ヤマハの2ストスポーツ株もグツと上がるに違いない。

さ

て次に、オフロード系はどうかというところ、どのメーカーも主力はオンロードばかり。セル付きKLX250ESを注目の1台に挙げる人がいたが、つまりはヤマハのセローとTTRの成功に追随したものと

思われるし、今回のシヨ一ではあまり収穫がなかったとガツカリ顔のオフファンが多かった。

そのなかで「XLRバハがヘタツてきたので乗り換えたいと思ってるけど、TTRはいいですね。ヤマハはホント、オフに強いメーカーだと思います。どうせなら今回のラリーレイドスベシヤル、発売してくれないかなあ。TDR250をラリー仕様にしてもいい。

どうして？ そりゃカッコいいからだよ」(江藤慎智さん/29歳/会社員)

シヨ一モデルという先入観が強いのか、あまり真剣な表情ではなかったが、値段しだいでは……、と目を輝やかせる人も少なくなかった。

加えて、ヤマハのオフロード車はセローやTTRなど現行モデルの人気の相変わらず高く、おさわりコーナーでオンロード車に負けない大勢の人垣を集めた。続いてスクーターのJOGアプリオ。モーターショー直後、12月3日の新発売が決まった期待のニューモデルだが、モーターショーの来場者が圧倒的に若者中心でスポーツ志向が強く、年配者の多く

は四輪目あて。スクーター興味層とはズレてしまったことから、意外に注目度が薄かった。

実際、数人の女子高校生や主婦に話を聞いても、まわりの派手な展示に気を取られ、アプリオどころかスクーター自体の印象はイマイチ。画期的な機能、使い勝手のよさがウリのアプリオだが、店頭での告知は、まずデビューの話題性、商品の目新しさを改めてしっかり打ち出したい。

二輪専門各誌には、カラーページで数多く紹介されているので、それを利用するのも手だろう。

ところが、皮肉なのはPAS。背広姿のオジサンや女性たち、さらには若者までが足を止め、説明に聞き入る。そんな人垣がいつも取り巻いていた。

アプリオや電動スクーターMESTに比べ、なぜPASだけがこんな予想以上の人気を得たのか。

ひとつは、バイクブーナスになぜ自転車や堂々と置かれているのかという好奇心。そして商品発想のおもしろさ、新しさだ。地域限定ながら、すでに発売が決まっていることもあり、資料請求の数は最も多かったそう。

「純粋な電気自動車や電動バイクは、日

現行車にも注目熱いオフロード アプリオは店頭活動がカギ！





ヤマハへの期待、要望

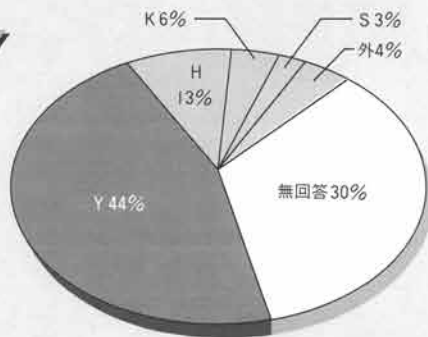
XJR400、TT250R、セロー、SRといった現行車種の人気か、あるいはXJR1200をはじめとするショーモデルへの期待感からか、注目車と同様に「欲しい、買いたい」バイクをメーカー別に見てもヤマハが1位。
サンプリングの条件を割り引いても来たるべき'94年以降に希望を抱かせるデータといえよう。

ヤマハへの意見、要望としては、モーターショーらしく商品への声に終始したが、やや目立ったのは「もっとヤマハラしさを！」「他社にないバイクが欲しい」「5~6年前のようなヤマハの色がない」といった意見。ネイキッド路線を歓迎する大勢のなかで、ヤマハオリジナルのモデルを待ち望むファンも根強いようだ。

Q3: ヤマハのモーターサイクルに対する印象は?
(100名/複数回答)



Q4: 欲しいバイクはどこメーカーにある?



常で使うとなると価格とか経費、手間、性能など、現実的にまだピンと来ないよ。でもPASは、モーターと人力? 背伸びした性能を追ってないから実用的だと思うし、免許もヘルメットもいらないうつていうと、バイクより手軽で自転車よりラクなわけでしょ? すごく興味あるねえ。これでもう少し安けりゃな……」(水野和彦さん/53歳/会社員) など、単なるモノ珍らしさだけでなく商品として、四輪しか眼中になかった中・高年齢層の目を確実にとらえた。

お店にとつては、これまでにない客層

へアプローチできる期待を含め、今後の全国発売が待ち遠しい一台となりそう。ともあれ、現在の人気商品を軸にライオンナップを充実させていこうとするヤマハの'94年。モーターショーで垣間見たこのレポートから、どういう1年になると感じられたらどうか。'94商戦スタートに向けて、店頭活動プランの参考にしたい。

東／西 モーターショー 販売店主さんが見た '94へのアプローチ



「何を売るか」が明確に!!

スクーター市場に新旋風 新鮮、シヨグアプリオ

最近の傾向どおり、各メーカーとも自動二輪に重きを置いた出展でしたね。XJR400の市場に多少影響を与えそうなモデルも、カワサキやスズキあたりで2〜3見られました。

でも、私が一番最初に興味を持ったのはシヨグアプリオです。うちの店の場合ここ2年間スクーターの販売が漸減してまして、誰にでも安心して売れるスタンダードモデルが欲しいと思っていたところなんです。アプリオはスタイルもやわらかいし機能的に造られていますよね。幅広い層に売れるスクーターという点では、満点に近い出来栄えだと思えます。

ただ、私個人としては気に入っているデザインも、市場に出たらどうでしょう？ 四輪のブースもクルマの造形が四角くなっている中で、本当にいま丸っこいデザインが新鮮に映るかというと、正直に言って分かりません。これを「カワイイ」としてもらえたら、かなりの数がかせげそうですけどね。

A4判のバインダーが入るという機能をセールストークに、まずは近くの女子大へアプリオをかけてみたいと思います。

スポーツバイクで注目したいのは、T250Rです。特にラリーレイド仕様



の方はドキドキするくらいカッコいい。自分が使う場面がすぐに頭に描けるモデルですね。

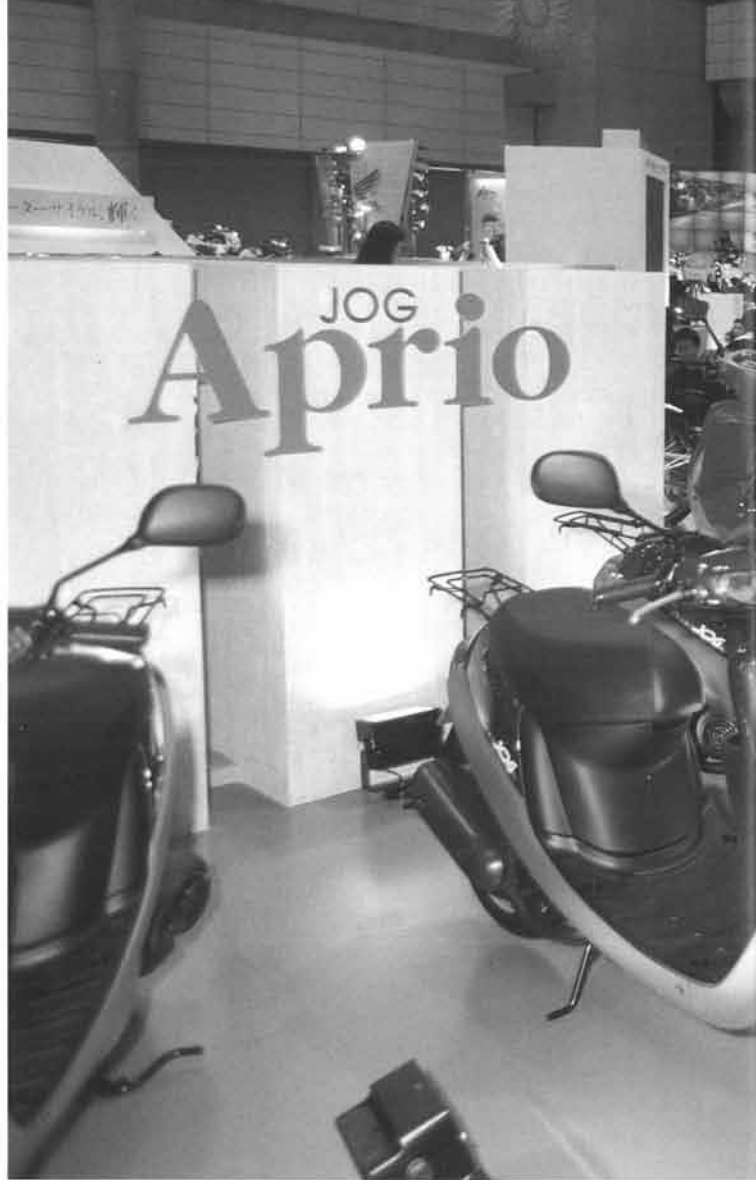
もしあのモデルを市販レベルに落とし込むとしても、マニアックな味つけはできるだけ残して欲しいと思います。しかも一灯にしたメリット、たとえばスポッ的な明りが求められる状況などなせこの装備が必要なかを説明できるようにしておいて欲しいですね。

そうすればスタンダードモデルと2極化しても、どちらかが倒れることはないと思います。ホンダのXR250RとBJA、あれがいいお手本になるかもしれません。

売り方としては……思いつきで申しわけないんですが、林道でのナイトツーリング試乗会なんか効果ありそうですね。

辛口70点のヤマハブース 今後の商品構成に期待

今回のモーターショーでは、あれっ？と不思議に思うところがいくつかありました。たとえば自動二輪全盛の中で、ホンダだけが250で勝負してきたのなかその典型ですね。あのV25マグナというモデルを見た時、最初は「アメリカンのスタイルも変わってきたな」と思ったんですが、そうではないというところに気がつくなくちゃいけない。あれはアメリカンではなくて、ホンダの新しいジャンルなんだと思います。時代はネイキッ



既存商品の価値を向上させたヤマハブースの出展車

YSP相模原中央 瀬谷秀人社長(神奈川県相模原市)

ドだぞと思っていたら、トレンドはもっと先を行きそうなんです。

私たちはついヤマハのブースにとらわれがちですが、メーカーも私たち販売店も、こうした機会にもっと勉強しなくてはいけないということを痛感しました。

とは言っても、やっぱりモーターショーはクルマ好き、バイク好きのお祭りですから、彼らの心をくすぐるモデルが必要だと思います。私自身もサラリーマン時代にXJ750Eをモーターショーで見、それが直接的なキッカケとなって熱烈なヤマハファンになった経緯がありますから、将来のお客さんをつくる上でこの点は見逃がせません。

今回のヤマハブースではXR1200がその役割を担っていたわけですが、タイミング的にもパッチリの投入だった

と思います。「乗ってみるとその良さが分かる」という話をヤマハの方がしてましたけど、見ただけでも迫力は十分に伝わってくるし、細部の造りも絶品です。エンジンは信頼できるFJがベースなので、あとはいかにヤマハらしく現在の時流にあった味つけができるかに期待します。

ヤマハブースの全体的な印象としては、ちよつと厳しいかも知れないですけど合格点ギリギリの70点ってとこですね。せっかくXR400とTT250Rで息を吹き返したので、できれば新しいチャレンジで他を一步リードして欲しい。ただ、既存モデルの価値観向上という点ではよく考えられた出展だったと思います。これで先も見えましたし、何を売るのがより明確になったショーでしたね。





明日の商売が見えたモーターショー XJR1200を軸に '94年は現行スポーツを再拡販!!

YSP 阪奈 犬村康信社長(大阪府大東市)



花よりだんごの出展車で '94年の商売を大展望!!

今回のショーを一言で表わすと、そうですね。花よりだんごのモーターショーってところでしょうか。不景気な世の中で、自動車メーカー各社がモーターショーのとらえ方を変えたように見えましたね。



具体的には夢いっぱいコンセプトカーが姿を消し、ショーアップという点でも華やかさが消えたように思えました。各メーカーともに「夢より明日の商売だ」って意気込みだったのでしよう。

こうしたショーの変化は、一般来場者の目はどう映ったのかは分かりませんが、私たち売り手から考えると非常にありがたいものでした。メーカーの長期的なビジョンではなくて、来年はどんなモデルを投入してくるのか、これがお客さんにダイレクトに伝わるだけでも意味があったと思います。たとえて言うなら、ジャブよりKOパンチですね。

で、ヤマハのKOパンチが何かというと、やっぱりXJR1200でしょう。私が今回のショーで一番楽しみにしていたモデルなんですが、予想以上にしっかりと造り込まれていたのが安心しました。タンク、サイドカバー、テールカウルに至るまでトレンドに合っていましたし、



ヤマハらしい躍動感も感じられました。

来年以降の商売を考えると、どうしてもXJR1200の成功が不可欠なんです。数字的にはXJR400が商売の中心となるのは間違いありませんけど、400を長く売り続けるためにはXJRブランドのイメージづくりが必要だと思うんですね。そうした意味で1200ccが「カッコいいXJR」「速いXJR」のイメージをつくっていかないと信じています。

今年2回、YSPメンバーズの関西ブロックでヤマハ・ビッグバイク・スクーターを開いたんですが、参加したお客さんにもXJR1200の発売が励みになると思います。

店頭活動がキーとなる 現行モデルの拡販戦略

話は飛びますがけど、TT250Rラリレイド仕様も面白いモデルでしたね。市販車としての程度まで造り込めるかという点は問題ですが、現状でTTに乗ってるお客さんに遊びの方向を示すことができると思います。TTの使い方はひとつじゃないぞ、と。市販したら大化けしそうな感じもしましたね。

ただ不満なのは、グラフィック変更したスタンダードのTTの方です。マゼンタを使ってあれだけキレイに仕上げたのに、ホイールカラーがパープルのまま。もったいない感じもしますし、ああいうところにはお客さんも厳しいですから。中途半端だなどという印象を持たれるのが心配です。

心配と言えば、TZM50Rもそうですね。商品的にはスツキリまとまっているし、説明員の方も自信を持ってましたけど、あの手のバイクを売るためには普及活動が欠かせません。そのあたりをヤマハがどう考えているのかについて説明がなかったのが気がかりです。モノはいい、でも走る場所がないでは商品として成り立たないわけですから、いずれにしても考えを示して欲しいと思います。

あとは価格設定ですね。いまミニバイクレースで主流のNSR50も、ほとんど中古車が動いているだけです。みんなどうせレースで使うんだから」と新車に目を向けず、今の発売ですから、ターゲットを見据えた価格決定を希望します。

まあ、思うところはいろいろありますが、全体的には来年の商売にメドが立ちました。新商品として期待できるのはXJR1200とTZM50Rの2機種、それにジョグ・アプリオですか。排気量で言えば50と1200ですから中心にはなり得ないクラスですけど、中心を盛り上げるためには最高のラインナップとは言えます。

現行のXJR400とTT250Rをいかに長く売るか、ということと考えると、来年は店頭活動の差がそのまま販売台数につながる年になるでしょうね。うちではXJR1200の店頭試乗会を目玉に、スポーツバイク全体の盛り上げをしたいと考えています。今日はパッチリXJR1200の写真を撮りましたから、大阪に帰ったら、そく準備にとりかかりますよ。

No.1

を探せ 中野鐵也社長(中野商会/三重県伊勢市)

模型クラフト



▲7chプロポで、始動から前後進切換え、アクセル、サイレン、ウォーターポンプなど、すべての操作が遠隔操作できる

▶左から木村さん、中野社長、畑さん。船は、同型艇でも仕様が違うため、各自が細部まで工夫して再現

伊勢、鳥羽周辺は昔から伝統ある造船の町。「この程度の細工はそう特別なことじゃないよ」

模型クラフト日本一

豪

快に波を蹴たて、サイレンを鳴らして伊勢湾を駆ける三隻の海上保安庁巡視艇「いせゆき」「しのめ」「まきぐも」。その行く手には、大手を広げて立ちちはだかる巨大な影……。

すわゴジラ出現か、と思いきや、どうも相手は人間らしい。そういえば艇の大きさもマリッジェットよりやや小さい。

そう、実はコレ、中野社長とその友人、木村正さん、畑真司さんの3人が作り上げたラジコン船なのだ。しかし、たかがラジコン船とあってはいけない。海上保安庁第4管区鳥羽海上保安部の協力で手に入れた図面と、数百点におよぶ写真から設計図を起こしてそっくり10分の1にスケールダウンしたというだけに、なにして超精密。船形、外観、装備、船室内まで本物と見まがうばかりのデキばえだ。そしてデカイ。実物が26mあるから当然、この模型も全長2・6m。さらに、エンジンは3隻それぞれJOG、キユート、ベルUGA80用を改造して搭載するから、重量も70kgを超える。海はすぐ近くだが、持ち運びにトラックが必要だし、積み降ろしも4人がかりかクレーンを使わなければならない。

「三隻は、細部の仕様がそれぞれ違うけど同型艦だから、基本設計を木村さん、船体を造るFRPの木型を畑さん、エンジン提供を私で分担したんです。でも、パーツ作りや塗装、組立てとかは全部個人作業。みんな仕事の合い間にやるでしょ。私も2年半かかったわ」と中野社長は感慨深げ。模型づくりの最初は15〜16年前、33歳頃のこと。それでも、いきなり全長40〜50cmほどの帆船を雑誌から図面を起こして作ったというから、やはり並とはどっか違うようだ。

次の作品は？ とたずねると、「いやあ、まだ次は……なんて笑っていたが、帰りしな、「クルーザーヨットがおもしろそうだね」と返事が返ってきた。

TOPICS

ルーキーらしからぬ、冷静で落ち着いたレース運びが原田選手的身上。大勢の観音峠を前にしても堂々と受け応えた



「来年は、ゼッケン1に恥じないような走りをしたい」と力強く語った

世界チャンピオンをすみやげに 原田哲也選手が堂々凱旋！ 記者会見そしてヤマハ訪問

世界グランプリに今年初のフル参戦。

「とりあえず全戦完走をめざし、いくつかポイントが取れば……」と、ルーキーらしい控えめなコメントを残して旅立った原田哲也選手でしたが、開幕戦オーストラリアGPでいきなり優勝。

さらに、第3戦日本GP、第4戦スペインGPを連覇するなど一躍チャンピオン候補として脚光を浴びたのは、また記憶に新しいところでしょう。その後、不運な転倒などから終盤カピロッシに逆転を許したものの、最終戦で再度逆転。見事チャンピオンに輝きました。

日本人としては片山敬済さんに続いて2人目のチャンピオン。まして、かなり困難な状況を克服しての大逆転だけに、マスコミの注目度もひと

きわ大きなものでした。

10月1日には、帰国早々、原田選手の手合同記者会見が開かれ、37媒体70名ほどの報道陣が出席。シーズンを通しての心境やチームのサポートなどについて、さまざまな質疑応答が行なわれました。

「最終戦は、もともとチャンピオンを目標にしてたわけじゃないので、プレッシャーはなかったんです。チームの人たちも、内心はずこくタイトルを期待してるのに、気を使って何もいみませんでしたし……。まあ、口に出さなくても伝わってきましたけどね(笑)。

とにかくラストはぜひ勝って終わりたいから、優勝だけを考えて走りました。タイヤが最後までもつのはわかってたし、勝負は後半戦と決めて、狙いどおりの展開。一番印

やったぜ！ワールドチャンス！！「原田哲也テレカ」プレゼント

奇跡的な大逆転で世界グランプリGP2チャンピオンに輝いた原田哲也選手&YZ250M。ヤマハでは、この快挙を記念して100名さま(抽選)に特製「原田哲也サイン入りテレホンカード」をプレゼントします！



応募方法：官製ハガキに住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入し、〒438静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ実業が無料広報宣伝課「WGP」係まで郵送してください。
締切：'93年11月30日 当日消印有効
発表：発送をもって発表にかえさせていただきます。

NA、IA入り乱れて大熱戦の 「筑波500km」で TZR250Rが表彰台を独占！

全日本、そして世界へと夢をふくらませるフレッシュなライダーたちが腕を競うスーパーカップロードレース。そのイースタンシリーズ第17戦が、今年も「筑波500km」耐久レースとして9月4日、5日、茨城県筑波サーキットで開催されました。

このレースは、国際A級と国内A級ライダーがSS250、SS400の規定を満たすマシンで混走し、242ラップ、約4時間半にわたって争われるものです。

さらに、ポイントがかかったシリーズ戦ながら、総額1000万円の賞金もかけられ、エンタラントの意気込みはいつも以上にホット。ウェスタンシリーズからの遠征組やスポット参加組を加えて華々しい盛り上がりを見せました。

そんななか、予選でトップタイムをマークしたのは松戸直樹/亀作和哉(S.P.忠男組)のTZR250R。続いて2位には新井純也/三浦昇/須貝義行という、豪華メンバーを揃えたY.S.P.川崎中央&OFF・ONチームのTZR250R。関西の雄RC甲子園チームも10位と、好ポジションにつけています。

決勝は、本命を自されたS.P.忠男TZRをかわしたY.S.P.川崎中央TZRのホールショットでスタート。その後、S.P.忠男TZRがトップを奪い返し独走体制に入りますが、Y.S.P.川崎中央TZRもかつて全日本

で大活躍したベテラン3人が冷静にペースを守って堂々2位をゲット。

さらに、筑波のSS250コースレコードホルダー武山祐介を擁するN.I.S.S.E.K.I.&森のくまさんTZRが予選13位から浮上し3位。

結局、TZR250Rが総合1〜3位を独占しました。また、FZR400RRのゲッター&RSモトワールドチームも、総合13位、クラス2位となっています。



11月7日、T1サーキット英田で行なわれたスーパーカップグランドチャンピオン大会でも、TZR250RはSS250の1〜3位を独占。さらにGP250でTZ250が1〜5位を占め、SS750はYZF750が優勝した



日本、北米そしてオーストラリア オープンファイールドの覇者TT-Rが レースに冒険に大あばれ!

「ビュアオープンエンデューロ」の名を冠し、タフで扱いやすく速いマシンとして世に送り出したヤマハTT250Rは、早くも数々のレースや冒険ツーリングに使用され、大きな成果を集めています。

まずひとつは、月刊『ミスターバイク』誌が行なったオーストラリアの「キャンピング・ストックルートの走破。キンバリーで発見された金鉱の鉱夫のために、牛を運ぶ道（ストックルート）」として1910年、探検家アルフレット・キャンピングが開いた1870kmに及ぶルートを、バイクで走り抜こうというものです。しかし、58年に最後のキャラバン



砂地、ガレ場、草原……。時には押して歩くこともあった

が通過したのち、現在に至るまで使用されることなく、幻の道となったこのルートは、ギブソン砂漠をはじめ4つの砂漠が続く「何も無い荒野」。地元の名ガイドもクレイジーだと驚く旅に、おなじみ佐藤信哉さんとYSP横浜南・佐々木大明社長、そして2台のTT250Rが挑みました。

その旅の様子は、ミスターバイク誌11月号で計21ページにわたって展開されているとおり、容赦ない大自然対人間十バイク組は格闘の連続。それでもTT-Rは、ほとんどノーマル装備のままトラブルひとつ起さず、見事に完走。信頼性の高さを証明してみせました。

また、8月22日〜28日、アメリカ・ネバダ州を舞台に行なわれたラリー・レイド「ネバダラリー」で、バハ1000やオーストラリアンサファリにも参加している吉友寿夫選手が、



ラスベガスを起点、終点として3200kmを走破するネバダラリーには64名が参加

TT250Rを駆って日本人最上位のクラス4位に入賞。さらに、国内エンデューロ界でもハードといわれる「日高エンデューロ」では、4サイクル・BクラスにTT-Rが最多の24台エントリーし、プライベーター参加の藤原広喜選手、三沢学選手によって、それぞれ優勝と3位入賞を飾りました。デビュー以来、いろんな場面で期待に背かないポテンシャルを発揮しているTT-R。今後もこうした朗報がさらに増えていきそうです。



突然の大豪雨でできた湖を渡る。エンジンヘッドまで冠水してもTT-Rは止まらなかった

もつと広がれ！ オフ好き人間 全国各地で好評開催中 オフロードYRS&JrMXスクール

ヤマハでは、今年新発売されたTT250Rをはじめ、セロー1225やDT200WRといった市販車やYZシリーズなどのコンペモデルを多彩に用意して、お客さまのオフロードバイクライフを応援しています。

しかし、商品つまりハードウェアの面ばかりではもちろんありません。YESを通じてのエンデュー

ロレースや各販売店のみなさんにご協力していただいたのさまたまなイベント、スクールなど、ソフト面での活動にも力を注いでいます。

例えば、8月7日・8日、山形県・肘折モトパークで行なわれたYOSHOP4店合同の「バイクヒレツジ&オフロードYRS」や9月12日、埼玉県・桶川スポーツランドでの5店合同「オフロードYRS」、あるいは8月29日、北海道・栗丘ライディングパークの「ジュニアモトクロススクール」などは、今年特に力を入れたイベントのひとつ。

肘折、桶川のオフロードYRSは、あいにくのウェット路面でしたが、これまでほとんどオフ走行を体験したことのないビギナーは、顔を輝かせての参加。走行練習やミニ競技に



2日目の雨で大乱戦となった今年の日高エンデューロ。吉原明正選手や石井正美選手も涙を飲んだ



ジュニアMXスクールは、基本的なテクニックを実践的に学べる。時にはこうした体当たりのアドバイスも……

爽やかな汗を流していました。

また、栗丘のスクールはすばらしい好天のもと、チビツ子を含む28名の参加者を集め、ワークスライダー川崎智之選手や鈴木健二選手、田島久選手をはじめとする5人のインストラクターがみっちり指導。時にはタイムオーバーするほど熱の入った密度の濃いスクールとなりました。

TOPICS



XJR400、TT250R、セローWと今年はスポーツバイクのあたり年。参加者のなかにもニューモデルオーナーがいっぱい!

ヤマハニューモデルも続々参加
150台が霧降高原に集まって
大宮YSP合同ツーリング!

秋、といえばスポーツ、レジャー、読書、食欲、芸術……なんでも来いノの季節です。今となってはどれが昔からのセリフでどれがコジツケだかわかりませんが、秋はバイク



で遊ぶのにも最適な季節です。

そんな9月18日、19日の週末を利用し、埼玉県大宮市周辺のYSPでは、栃木県、霧降高原をめざして合同ツーリングを行いました。

高原とはいえまだ紅葉には少し早い時期でしたが、渡る風はひんやり涼しく秋のにおいでいっぱい。各ショップを出発した150台ものバイクは、思い思いのルートでツーリングを楽しみ、日光市宮グラウンドに集合しました。

ここで、各ショップ代表16チームによる、キックベースボール大会を開催。スポーツの秋を満喫したあとは、宿に入って大バーベキュー大会で食欲の秋、ゲーム大会でレジャーの秋と、短かった夏の分まで大いに盛り上がりました。

子供たちの順応性にお父さんもビックリした!?!
『毎日親子バイク教室』開催

夏休みも残りわずかとなった8月27、28日の2日間、小学生の親子を対象とした『毎日バイクミートイング・親子バイク&キャンプ教室』(主催:毎日新聞社/後援:ヤマハ安全普及本部)が、静岡県のヤマハテクニカルセンターとエルドラードin森を会場に開催されました。

抽選により選ばれた20組40名の親子が全国各地から集まりました。初日はヤマハテクニカルセンターでバイクの基本操作を学んだ後、自然に囲まれたエルドラードin森に移動。親子揃ってパチンコづくりに励んだりバーベキューを楽しんだり、夏の夜を大いに楽しみました。また翌日はアマゴ釣りやオフロード走行も体験。今までバイクに対して多少偏見視してたところがありましたけど、自分で乗ってみて素晴らしい乗り物だと実感しています」と話

チャンピオンマシンに好感
'94 125CCクラスを席捲するか
TZ125試乗会

加藤義昌選手のライディングで、'93全日本ロードレース選手権GP125ccクラスチャンピオンに輝いたヤマハのニューロードレーサー

TZ125。その新発売を前に、国内B級、A級、国際A級ライセンスを持つライダー対象の試乗会が、全国6カ所の



走行はひとりあたり約10分。短い時間ながら各ライダーは熱心にフィードバックを確かめる



レーシングマシンのポイントは走行性能ばかりではない。TZ125は整備性のよさでも好印象を与えた

サーキットで計8回にわたり開催されました。一般市販車とは違うコンペティションマシンだけに、試乗希望者はレース出場を前提として細かくチェック。述べ400名あまりが走行しましたが、

「よく曲がり、よく止まり、ストレートもかなり速い。扱いやすいマシンだ」「コーナーリングの自由度が高く、ライン変更がしやすい」「振動が少なく、フラットな出力特性で疲れない」「来年が楽しみ」などの声がかれました。

専門誌の評価では、エントリーユーザーでもハイレベルな走りができるマシンとされていることもあり、来シーズンは特に国内A、B級のレースで活躍が期待できそうです。



TOPICS



最近、こうした親子ぐるみのイベントが人気を集めている

少年少女 モーターサイクル スポーツスクール

大人も一緒に遊びながら学ぶ

モーターサイクルの持つ遊戯性、スポーツ性は、年齢や性別をこえて楽しめるものです。
そこで、モーターサイクルスポーツを利用して、遊びながら子供たちにその楽しさや正しい知識、交通マナーなどを身につけてもらおうという「少年少女モーターサイクルスポーツスクール」が、11月3日、埼玉県・桶川スポーツランドで開催されました。

これは、(株)日本自動車工業会と財団法人モーターサイクルスポーツ協会が主催したもので、当日はおとうさんやおかあさんと一緒に小学生20組が参加。用意されたPW50などを使って、発進・停止の練習やスラローム、8の字走行などを楽しみました。子供たちは全員、モーターサイクルの経験がないとあって、最初こそおっかなびっくりでしたが、メニューが進むにつれて笑顔がのぞく余裕の表情で、元気に駆け回っていました。なお、11月13日には奈良県・名阪スポーツランドでも開かれています。

こんなに楽しいスポーツだから
おとなも子供も一緒に遊べ!!
『MCスポーツスクール』

エコロジ、省エネルギーなど、地球環境保護に対する関心が全世界で高まっている現在、工業製品メーカーであるヤマハも難しい矛盾を抱えながら、できる限りの努力をしようと地球環境対策室を設け、さまざまな活動を行なってきました。

例えば製品リサイクル。モーター

限りある資源を大切にしたい!
ヤマハの努力に対し
リサイクル推進協議会より表彰

サイクル部品に多く使用されるポリプロピレンを可能な限りリサイクル製品に切り換え、また、車両梱包材をリサイクルしやすいスチール製としました。さらに、路上放棄車回収への協力、廃棄FRP製品再利用の研究、生産工場内の鉄、プラスチック端材リサイクルもそのひとつ。

ヤマハニュースをはじめ、カタログ、ポスターといった再生紙利用拡大は、みなさんが手にとって確かめていただける身近な例です。

もちろん、それと十分とはいえませんが、このたびこうした活動に対して、環境庁、厚生省など8省庁が支援するリサイクル推進協議会より「リサイクル推進協議会会長賞」を受賞しました。

所要期間9カ月、全行程約6万キロに挑戦する世界でもっとも過酷な外洋ヨットレース「ホイットブレッド世界一周レース」が、9月25日、英国・サザンブロン沖よりスタートしました。

全行程を6区間(レグ)に分けて走るこのレースの第1レグは、英国から南米ウルグアイまで大西洋を南下するコース。コース上にはヨットにとつての難所「赤道無風帯」が含まれ、この海域を早く突破することが勝敗を決めます。

11月13日にスタートした第2レグはウルグアイからオーストラリアまで約1万4千キロを走る最長レグ。強い追い風に乗り、氷山を回避しながらスピードの極限に挑みます。

第1レグ、ヤマハ惜しくも3着
勝負は第2レグで
ホイットブレッド世界一周レース



30TH TOKYO MOTOR SHOW

感動のフィールドへ。



ヤマハブース主要出展モデル

プロフィール

ネイキッド世界最大排気量モデル

XJR1200

“ワイルドダイナミックパフォーマンス”をキーワードに開発した、空冷1200ccエンジン搭載の参考出展モデルです。

エンジンはFJ1200の空冷並列4気筒をベースに、信頼性、耐久性、静粛性の向上を実現。新設計のカムカバーやシリンダーヘッドフィンで外観上のリファインを施し、やはり新設計のエアクリーナー、TRS付きBSキャブレター、4-1-2マフラー、大型オイルクーラーの投入で、従来の空冷概念を超えた中低速トルクと優れたスタート性能を達成しています。また、足まわりはφ43mmの大径フロントフォークやオーリンズリアサスペンション、φ320mmのフローティングディスク、4ポットキャリパー採用のフロントブレーキ、ワイドリム、ラジアルタイヤなどの設定によりレーシーモデル譲りの充実した装備を実現し、高い水準の走りを約束しています。

XJRブランドのイメージリーダーとして生まれたこのモデルは、メインステージで際立った注目を集めました。

●空冷4サイクルDOHCバルブ ●並列4気筒1188cc ●全長2170mm ●全幅780mm ●全高1120mm ●タイヤサイズ [前] 130/70-ZR17 [後] 170/60-ZR17



ネイキッドレースのホットな世界を演出

XJR400 ネイキッドレーススペシャル

今春の発売以来、動力性能の高さや外観、質感の完成度により順調な販売台数を記録するXJR400。この優れたベースモデルを、人気上昇中のネイキッドレース仕様でモデファイした参考出品車です。ベース車両の醸し出すファイティングイメージをもとに、ピキニカウルとテールカウルの造形を強調して外観を処理。エンジン、車体各所にも、ネイキッドレースレーサーとしてのファインチューニングを施しています。

- 空冷4サイクルDOHC4バルブ ●並列4気筒399cc
- 全長2020mm ●全幅710mm ●全高1090mm
- タイヤサイズ (前) 3.25/4.70-17 (後) 3.25/5.75-17

大人のツアラーにドレスアップ

XV400ビラーゴ XV250ビラーゴ 東京モーターショースペシャル

ライダーに語りかけるような空冷Vツインの心地良い鼓動。ゆったりとした乗車感と余裕の足着き性。そしてクロームメッキ仕上げを多用した豪華ボディ。人気のビラーゴシリーズに、フルドレスアップを施しました。特徴的なツートンのスペシャルカラーにボルトオン式サイドバッグ、大型のスクリーンなどを装着。ラゲッジスペースの確保とライダープロテクション効果を高め、味わい深いツアラーにまとめています。会場では幅広い来場者からの問い合わせがありました。

- 空冷4サイクルSOHC2バルブ ●V型2気筒399cc (248cc)
- 全長2225mm (2190mm) ●全幅800mm (800mm)
- 全高1380mm (1250mm) ●タイヤサイズ (前) 3.00-19 (後) 140/90-15M/C<(前)3.00-18 (後) 130/90-15M/C>

※<内はXV250東京モーターショースペシャル

水冷2サイクル搭載のニュー12インチ

TZM50R

街のスニーカーとしての俊敏性とミニバイクレースでの実力を両立させた、YSR50以来7年ぶりのヤマハ12インチレーサーレプリカです。

エンジンはTZR50RやYZ80と同様のケースリードバルブ型。特にTZM50Rでは、中高速の加速フィーリングに磨きをかけています。このエンジンをYSR50との比較で1.5倍の高剛性を持つニューフレームに搭載。新作のフロントフォーク、ビルシュタインタイプ的气封入りリアサスペンション、アルミ中空キャストホイールなどの相乗効果として、クイックな操安性を達成しています。さらにフロントディスクブレーキには2ポットキャリパーを、リアにはコントロール性を重視してφ161mm小型ディスクローターを設定し、確実な制動力を実現します。

モーターショーには原田哲也選手の所属するパレージチームのカラーリングを施したマシンも展示。ヤング層に向けて大きなインパクトを与えました。

- 水冷2サイクルクランク室リードバルブ ●単気筒49cc
- 全長1580mm ●全幅625mm ●全高910mm
- タイヤサイズ (前) 100/90-12 (後) 120/80-12

オーストラリアンサファリを見据えて…

TT250R ラリーレイドスペシャル

シドニー〜ダーウィン間の8500kmを10日間で走り抜くオーストラリアンサファリ。この過酷なラリーレイドのレギュレーション適合を図り、人気のTT250Rにもモデファイを加えました。

300〜400kmのノンチャージSS区間を含め、一日の平均走行距離が約800km。日中35度、深夜は零下となる気候。120km/hを超える高速巡航や早朝、夜間の暗闇走行など、壮大なオーストラリアの大自然を走り抜くための装備を満載しています。

アルミ製の燃料タンクは大容量の16ℓ。これに加えて左右サイドカバーには各10ℓのサブタンクを装備し、合計36ℓの容量を確保しています。その他、2ℓの水用タンクを兼ねたエンジンガード、バックスキンシート、ロールマップ、大型ヘッドライトとアルミライトステーなど、TT250Rのポテンシャルを生かす装備を随所に施しています。

- 空冷4サイクルDOHC4バルブ ●単気筒249cc
- 全長2145mm ●全幅885mm ●全高 1350mm
- タイヤサイズ [前] 90/90-21 [後] 120/90-18



定番ジョグシリーズに大型新人 ジョグ アプリオ

スクーター初のマイコン制御デジタル点火方式を採用した、スクーターの定番、ジョグブランドのニューモデルです。

クラスNo.1の容量を誇る6ℓのフュエルタンクの採用により、実質的航続距離の大幅な向上とともに給油の手間を半減。ペットボトルがすっぽり収まるフロントラック、クラス最大級のフラットスペースを誇るステップボード、フルフェイスヘルメットやA4判バインダーも収納できるメットインスペースなど、スクーターユーザーの要望に応える装備を充実させています。

- 空冷2サイクルクランク室リードバルブ ●単気筒49cc
- 全長1615mm ●全幅630mm ●全高1000mm
- タイヤサイズ [前] 80/90-10 [後] 80/90-10



最小最軽量のエレクトリックスクーター MEST(メスト)

“Minimum Electric System Transportation (最小最軽量の電動移動具)”をコンセプトに開発した電動スクーターです。その名のとおり空車重量80kgとスリムな車体を達成しながら、2サイクル50ccスクーターと同レベルの走行性能を達成しています。

モーターショーではイベントホール内の電動自動車ゾーンに展示されました。

- ブラシレスDCモーター
- 全長1530mm ●全幅630mm ●全高1000mm
- タイヤサイズ [前] 80/90-10 [後] 80/90-10



NEW
PRODUCTS

バイクライフをより機能的にする
スグレモノ3点、新発売!



XJR400用エンジンガード

¥12,800 部品番号: 90793-65018

材質: スチールパイプ(バフ研磨+クロームメッキ表面仕上)

転倒時のエンジンに与えるダメージを軽減、クランクケース交換などの大修理を回避する最大の防御策です。高品質な外観で本体ともベストマッチング。簡単に取付けできるうえ、バンク角などの機能もまったく損いません。



バップルスポンジ(12月9日発売)

¥1,000 部品番号: 90793-66170

材質: ポリウレタンフォーム(耐ガソリン)耐熱温度80℃
寸法: 48×100×196mmと48×50×390mmの2個セット

オフロードレースなどで、車体各部の透き間にバップルスポンジを充てんすることにより、泥づまりを予防。また、ロードレーサーなどには燃料タンク内に挿入することにより加減速時の燃料移動を防止します。



ハイパーバッグ

¥2,000 部品番号: 90793-64094

材質: バイクカバーと同一生地
(耐水圧1,000mm) バイオレットコーティング

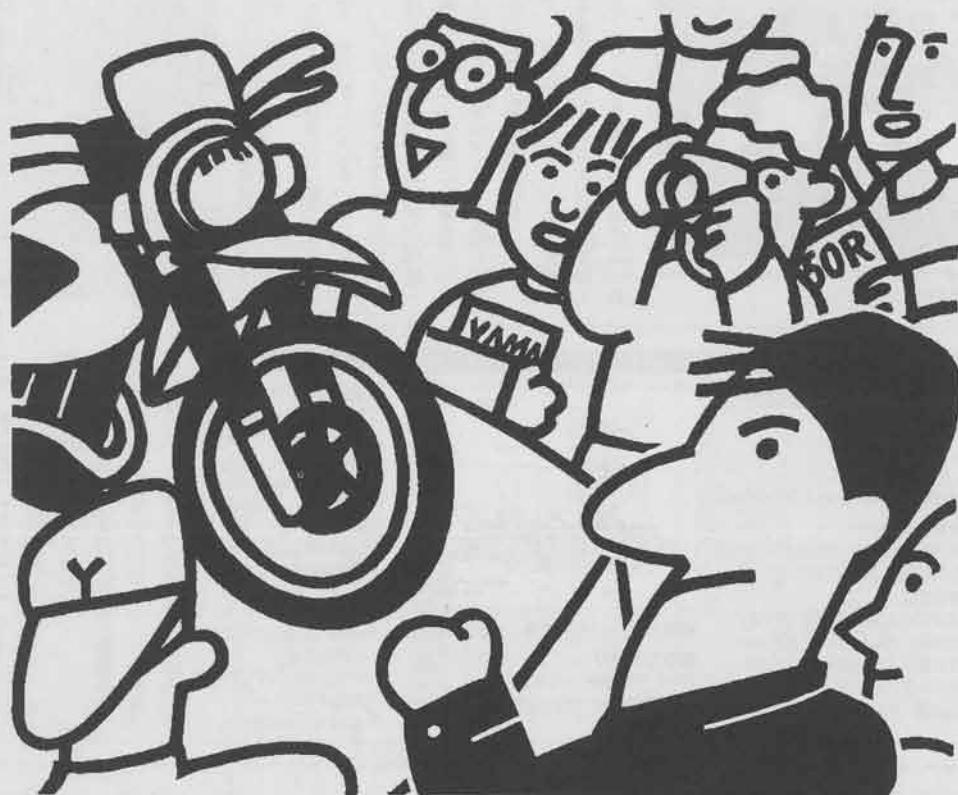
レース時の用品のパッキングや使用後のウェア類などの収納に最適です。また、コンパクトに折りたたむので、ツーリング時の非常用レインバッグにも使用できます。

お客さまとお店の

交流記

最終回

モーターショーに行く……の巻



10月2日 引越しのために久し振りに押し入れを開けると、バイク関連のガラクタが山ほど出てきた。キズだらけのヘルメット、クタクタになったMXジャージ、使いかけのチェーンオイル、穴のあいたレインウェア、封したままのスモークシールド、ツーリングネットに各種の金属パーツ……。どれも持っていけばジャマになるものばかりだが、捨てる気になれずにまとめて段ボールに押し込んだ。

10月3日 いよいよ今日は引越しの日。午前中に荷物を全て片づけ。午後一番で新居へと出発した。僕はセローで自走し、引越しセンターのトラックを先導する。途中雨がバラバラ落ちてきたが、なんとか1時間の移動は完了した。

新しいアパートでまずしたことは駐輪場の確保。幸いセローがスポリ収まる

屋根つきの場所が確保できた。階段裏のデッドスペースなので、ここなら住人に迷惑かけることもないし、車両の出し入れも以前より簡単にできる。

10月7日 住民票を移すため役所に行ったついでにバイクショップにも立ち寄った。新住所になったのでYESSの手続きをし、注文してあったハンドルガードを受け取る。さらにヘッドライトの玉が切れているのを出してもらった。

今日は社長さんがいない。整備の講習会に出かけているという。僕としては全幅の信頼を置いている社長さんだが(もちろんYTS★★店)、そういう人でもまだ勉強をしているんだなあと感心する。

小雨の中、近所のおじさんがバンクの修理にやって来た。ここは3級整備士の資格を持つ奥さんの腕の見せどころだが、「申し訳ありませんが今日は主人が不在ですので、一日お預かりさせてください」と話している。おじさんも「急いでないから」とバイクを置いて帰ったが、僕は不思議に思

い奥さんに聞いてみた。「なんで修理しないの?」「あのね、バンクの修理はさせてもらえないのよ。「バンクを甘くみると痛い目にあう」が主人の口グセでね、もしバンクみたいな簡単な修理で何かあったら、それこそ店の信用がなくなるって。ほんとに頑固なくらい職人氣質だから……」なるほど、僕は納得した。

10月24日 東京モーターショーに行く。本当ならセローで行くつもりだったが、幕張付近の渋滞がひどいというウワサを聞いて電車で出かけた。

もちろん目当てはXJR1200だ。雑誌で見ると楽しみにしていたのだが、人気もバイクコーナーが一番だったように思う。

しかし僕が一番興味を持ったのは、TT250Rフリーレイドスペシャル。たぐましいビッグタンクと印象的なヘッドライトがなんともカッコいい。参考出品車ということなので市販されるかどうかはともかく、欲しいモデルには違いない。ぜひヤマハさんに頑張ってもらいたいものだ。



すべての応募作品、応募者氏名を収めた『作品集』のほか、入賞作品を利用した'94年版カレンダーもあります。店頭でぜひご利用ください

ありがとう！1304点の応募 おめでとう！受賞作品16点 『第6回ナイスライドまんがコンテスト』

全国Y.E.S.S.ショップ会と住友海上火災保険(株)が協力して、「安全で楽しいバイクライフをみんなで考えよう」と毎年展開している「Y.E.S.S.二輪車ナイスライドまんがコンテスト」は、今年も全国から1300通を超える応募をいただきました。

あらためてみなさまのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

さて、コンテストのほうは、先日、日本大学理工学部教授で交通工学の権威・長江啓泰氏らによって厳正な審査が行なわれ、2部門のグランプリ1作品ずつを含む16点の入賞作品が選ばれました。

続いて、9月24日にはその入賞発表・表彰式を東京・住友海上火災保険本社で開催。みごと入賞を射止めた方々に、表

彰状と賞品を手渡しました。

ここに、入賞作品の一部と入賞者全員のお名前をご紹介します。今後とも、より良いバイクライフの実現にご協力ください。

入賞作品と入賞者のみなさん

●A部門/バイクの安全な使い方

■グランプリ

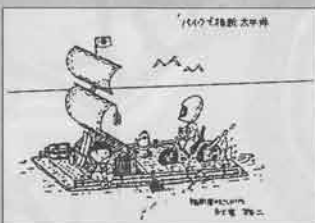
「いやあ、なんたっていちばんコワイ!!」
金澤逸子さん(31歳・大阪府守口市)

■準グランプリ

早川陽さん(29歳・東京都世田谷区)
佐藤弘さん(29歳・千葉県松戸市)

■優秀賞

須藤幸夫さん(31歳・東京都板橋区)
長嶋栄二さん(30歳・埼玉県新座市)
吉井章二さん(36歳・神奈川県横浜市)
高岸厚司さん(32歳・広島県福山市)
加藤健一さん(27歳・埼玉県狭山市)



●B部門/バイクの楽しい使い方

■グランプリ

「バイクで横断 太平洋」
秋重彌二さん(45歳・福岡県北九州市)

■準グランプリ

花房範子さん(26歳・大阪府枚方市)
丸山健さん(40歳・東京都武蔵野市)

■優秀賞

鈴木宏嗣さん(26歳・東京都江東区)
高岸恒夫さん(34歳・京都府京都市)
松下聖子さん(28歳・東京都江戸川区)
山根青鬼さん(57歳・東京都八王子市)
結城法子さん(27歳・北海道旭川市)



知的でおもしろく、ためになる ビデオシリーズ『運転の科学』を常備、ご利用ください

ライダーにとって、楽しいバイクライフを過ごすための必要不可欠な条件は“安全”です。

そこで、転倒したり事故を起こさず、すむようライディングテクニックを磨いたり、被視認性をよくするための服装や万一の時に備えたヘルメット、服装を選んだりするわけです。

しかし、それがなぜ安全なのか、どうすればより効果的なのかなど、正確に理解している人は少なく、むしろ多くの人が疑問に思っていることでしょう。

ビデオシリーズ『運転の科学』は、例えば、①濡れたアスファルト ②乾いた砂利道とで滑りやすいのはどっち? (「摩擦力」より) といったような事柄を、テーマごとに取り上げ、さまざまな実験映像で科学的にわかりやすく解説しています。

ヤマハ安全運転推進本部では、全10巻(各10分/VHS)からなるこのビデオシリーズを特別価格(¥4000/各巻1本)であっせんいたします。

ぜひ店頭で常備いただき、業務でバイクをご利用の事業所さんへの貸し出し、あるいは一般のお客さまへのライディングスクールなどでの教材としてご利用ください。

また、1ヵ月間に限り、店頭への無料レンタルシステムもあります。

●詳しくは「ヤマハ安全運転推進本部」TEL0537-24-5197(ヤマハテクニカルセンター内)または、お近くのヤマハ営業所、拠点までおたずねください。



信頼される技術力の証し ヤマハテクニカルサービススター店 続々ステップアップ進行中!

ヤマハでは、お客さまが安心して愛車の整備を任せられる高い技術力を持ったお店に対し、「ヤマハテクニカルサービススター（YTS）店」資格の認定を行っています。信頼感のアピールに努めています。このスター店資格は、ご存じのとおりシングルスターからスタートして、ダブルスター、スリースターまで3つのグレードがあり、おのの条件を満たしていくことにステップアップがはかられるというものです。

そうしたなかで、数多くのお店がダブルスター、スリースターへと進み、今回もダブルスター82店、スリースター7店が新たに誕生しました。おめでとうございます！これからも、ますますの研鑽をお願いいたします。

また、基礎的な技術力を培う「YTSヤマハ二輪車整備士講習会」も全国で実施中です。ぜひ積極的にご利用ください。

■YTSヤマハ二輪車整備士講習会

北海道 ヤマハ	東北 ヤマハ	関東 ヤマハ	中部 ヤマハ	関西 ヤマハ	中国 ヤマハ	四国 ヤマハ	九州 ヤマハ
		[R] [2M] 14-16	[R] [2M] 8-10			[2M] 6-8 高松	[2M] 8-10 10-12 松山
[4M] 27-29	[R] [2M] 17-19	[R] [2M] 17-19 北陸	[R]	[R]			
[4M] 31-2/2		[4M] 20-22 北陸					
[2M] 3-5	[R]	[R] [2M] 8-10 15-17 新潟	[2M] 8-10 24-26 新潟	[2M] 2-4	[4M] 16-18 22-24		[R] [2M] 8-10
		[2M] 21-23 新潟	[2M] 24-26 新潟				

B/ベイスック 2M/2サイクルマスター 4M/4サイクルマスター D/ドクター ※都合により、開催変更および中止となる場合があります。また、ベイスックは拠点開催ですので、日程のないものは各営業所へお問合せください。



KART

完成度高めたベイスックモデルと 新フレーム搭載の上級モデル '94ヤマハカートが12月新発売!

ベギナーから中、上級者まで、幅広いカートレースファンに愛用されているヤマハレーシングカートが、12月1日よりポテンシャルアップして新登場します。

'94ラインナップの内訳は、SLカートレースシリーズの各クラスに対応した完成車4種「RC100SD」「RC100SC」「RC100SS」「RC100AZ」と、単体フレーム「RS-III」「RF-III」の2種、そして3種の単体エンジン「KT100SD」「KT100SC」「KT100AZ」の計9アイテム。

それぞれ、SLレースのワンメイク指定車として基本性能を守りながら、操縦性、操作性、整備性、耐久性などの向上にこだわって完成度を高めたほか、中・上級者向けの単体フレーム「RF-III」は、全日本選手権の頂点クラスFSAで'92-'93連続チャンピオンに輝いたヤマハワークスドライバー樋口信之選手の最新スペックをそっくり市販化。メインパイプ素材、パイプワーク、各部仕様に至るまで、従来のRF-IIとはまったく異なる仕上がりとなっています。

同時に、「RC100SS」「RC100AZ」にもこの最新バージョンを採用。飛躍的な車体性能アップをはかりました。カートレース好きなお客さまに、ぜひご紹介ください。カート入門の手引きから'94ラインナップのすべてを掲載した、「ヤマハレーシングカート総合カタログ」も用意しています。

■ヤマハテクニカルサービススター店制度

新規認定店のみなさん

- | | | |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ★★★スリースター ●東京 YSP高円寺 ●静岡 YOU SHOPモトベアカンパニー ●愛知 YSP一宮中央 YSP名古屋北 YSP名古屋東 ●岡山 YSP岡山南 ●広島 YSP安芸 | <ul style="list-style-type: none"> スポーツショップ市原中央 ●東京 YSP小金井 YSP杉並 YSP大原 YSP田園調布 YSP八王子西 YOU SHOP 磯貝 中西モータース RIDING SPOT INO 勝グリーンロード 南ビットインオート 南古川モータース 勝バイクショップオカムラ ハヤシカスタム オートサロンオギヤマ 藤羽田ホンダ販売 勝佐藤クレジットサービス中野店 | <ul style="list-style-type: none"> 神広丘自動車研究所 茂勝輸送 ●岐阜 YSP中津 ●静岡 株オートセンター静岡 ●愛知 朝加藤サイクル (合)伊藤兄弟商会 オートセンターヤマダ陸知立店 和田スポーツレジャーショップ 東海オートトレーディング株式会社 株カワセモータース ●大阪 YOU SHOPナカノ YOU SHOPモトサブライ コレサワサイクル ●兵庫 YSP西神戸 株瀧カワサキ ●和歌山 YOU SHOPいとう ●鳥根 YOU SHOP白上 ライドオン・プロダクトSide-B ●山口 YSP宇部 ●福岡 YSP友泉 YSP博多 ●長崎 バイク屋七田長崎 南オートキャビン道田 ●熊本 南神山モータース ●大分 YOU SHOP松田 矢野モータース ●宮崎 YSP宮崎 ●鹿児島 バイクセンターながとち 南瀬戸口近代車商会 |
| <ul style="list-style-type: none"> ★★ダブルスター ●青森 今井モータース ●岩手 ビッグボックスボトラ ●宮城 トレイルショップタケダ 山口輪業商会 南橋岸オート ●山形 YOU SHOPヤマカ 2輪ショップカモシカ ●福島 YOU SHOPササキ ●茨城 スポーツショップコムロ 南中央オートサイクル ●栃木 YSP宇都宮中央 ●群馬 ARSオカダ ●埼玉 株原サイクル 株ハラダ モトハウス・タカハシ ●千葉 | <ul style="list-style-type: none"> イマイホンダオートセンター 南バイクサービスグリブ モトボックス・セキ 南オートショップユキ ケイショウサービスセンター ダイワモータース モーターサイクルプラザおざわ ●神奈川 YOU SHOP SHODA YOU SHOP スギモト 南サカエオート 南神崎モータース 栄和自動車販売株 株オートセンターイリヤ鶴見店 株オートセンターイリヤ川崎店 株オートセンターギヤマ 株斎藤オート サンユーバイクサービス ●新潟 YSP長岡東 YOU SHOP小林ヤマハ ●山梨 YOU SHOPフクダ ●長野 YSP茅野 | |



RC100SD/SC “Sストック”の名で親しまれた入門クラスSK・PF4-SD/SC用完成車(写真はSD)

RC100AZ SLカートレースの頂点FA2-ASクラス用完成車。最上級フレーム「RF-III」採用

RF-III 中・上級者向け単体フレーム。'93全日本チャンピオンを獲得したヤマハワークス最新スペックバージョン

11月・12月のヤマハ提供番組

■ヤマハONANDOFF

陸と海、2つの大きなフィールドを舞台に展開するすばらしいヤマハワールドの数々をご紹介します。

巧みなカメラワークを駆使した美しい映像と選り抜いたBGMで、話題性に富んだテーマをスポーツマイナリティたつぷりにお届けします。

- ▼11月20日(バイク編)
- ▼「原田哲也選手WGPを語る」
- ▼11月27日(マリ編)
- ▼「大儀昌彦さんが語る世界の海」
- ▼11月4日(F1編)

店内展示に、お客さまプレミアムにささまお役立てください
『ヤマハ1994カレンダー』

もう間もなく師走。夏らしい夏がなかっただけに、今年1年、ひときわ短く感じられますね。

みなさんのお店にとってはどんな1年だったでしょうか。来年はよりよい年でありますように願いを込めて、お世話になった方やお客さまへ、感謝の気持ちを表わしておきたいものです。

そういう時の定番「プレミアム」といえば、やっぱり「ヤマハカレンダー」。今年も、毎年ご好評をいただいている「レーシングカレンダー」をはじめ、さまざまなヤマハワールドを網羅した「企業カレンダー」や爽快なブルーが美しい「マリンスポーツカレンダー」「マリタイムジカレンダー」「大漁カレンダー」の5種を用意しました。

ご注文いただいた方がもうお店に届いた頃かと思いますが、プレミアム用のほ



AD

■オリジナルコンサート私たちの創った世界
世界各国で精力的に活動を続けている「財」ヤマハ音楽振興会「ヤマハ音楽教室」そこで育った世界の子どもたちによる自作自演のコンサート模様をお届けします。

日曜の朝をすがすがしく彩る新鮮な音楽の響きをゆっくりとお楽しみください。
テレビ朝日系全国ネット・放送日/毎週日曜日。放送時間/7時30分から8時。

■ぼっくん王国(ヘラジコ) ニュージックスタジアム

10代の音楽フリークを対象としたアマチュアリズムたつぷりのラジオ番組です。月曜から木曜まで、曜日ごとに切り口を変えた楽しい企画で、アマチュアバンドを応援します。ニッポン放送他16ネット。

かにクリスマスパーティーの賞品、あるいは店舗ツールとしてなど、アイデア次第で活用方法はいろいろあります。個性的な使い方を工夫してみてください。

年末・年始パーティプレゼント

お客さまを大勢招いて開くパーティには、ちょっと気の利いたプレゼントがつきもの。お店からひと言添えて、こんな小物はいかがですか？



ビジネスポーチ
(No.374082/¥6,000)
ビジネスはもちろん、プライベートな外出の時に重宝するハンディバッグ。身の回りの小物をまとめてポンとつかめば準備OK。ポケットの満杯モッコリ状態を解消します。

トラベルシェーバー
(No.374085/¥4,500)
男性ライダーが陥りやすい無精ヒゲおかないし状態は、時と場合を限って許されるもので、普段はやはりサツバリしておきたい。ココロあたりの方に、どうぞ。

トラベルクロック
(No.374085/¥4,500)
ツーリングの時、いつも集合時間に遅れるとかいう遅刻常習犯、いませんか？ 朝寝坊の言い訳は大体目覚まし時計。念のためにもうひとつプレゼントして、来年は無遅刻の宣言を！

BOOK

時代を作りあげた名車から歴史をひもとく『国産二輪車物語。』

欧米の技術を導入することから始まった日本のモーターサイクルは、やがて国内の経済、交通事情を反映しながら独自の発展を遂げ、今や世界をリードするまでになりました。

そうした過程には、いつもその時代を画するにふさわしい、数々の名車たちが生み出され、長く語り継がれています。

この本は、これら多くの名車のうち特に代表的な22台について詳細なスペックや時代背景、誕生秘話などを、豊富な資料を写真で立体的に描写。日本のモーターサイクル史概論とも言えるべき1冊です。



小関一夫・著 三樹書房・刊 1,850円

ALL JAPAN
MX

全日本モトクロス選手権・第12戦MFJグランプリ

ケガも回復し増田智義が復活 来シーズンにつながる総合6位!!



ランキング4位は自己最高位。'94シーズンに期待のかかる増田智義

今季開幕戦を総合優勝で飾り、絶好のスタートを切った若手のホープ増田智義。唯一、E・ウォーレンとR・テイチナーにからめる日本人として注目を集めていたが、シーズン中盤のケガが原因で調子を崩し、後半戦は思うような成績を残せなかった。しかし10月17日、岐阜県・多治見コミユニティランドで開催された最終戦では総合6位に入賞。来季につ

ながる元気な姿をアピールしている。「最後の最後でようやく上位入賞ができた。ケガが予想以上に尾を引い

ALL JAPAN
RR
全日本ロードレース第12戦・MFJグランプリ
本間利彦、500ccに大きな自信
ランキング2位で今季終了!!

元250ccクラス全日本チャンピオンの本間利彦が、500ccクラスに転向したのは3年前。過去2年の不振からようやく脱却し、'93シーズン開幕戦では同クラス初優勝を飾り周囲の期待を集めていた。

その本間が最終戦のMFJグランプリ(10月31日/茨城県・筑波サーキット)で、表彰台の一角を占める3位に入賞。トータル111ポイントを獲得してランキング2位を決めた。「できればチャンピオンを狙いたかったけど、目標は達成できたので満足しています。ただ勝てるレースを落としたのが悔しい……」と持ち前の負けん気の強さをのぞかせたものの、チーム監督の河崎裕之氏は「よく頑張った」と満足顔。本人にとっても自信を深めたシーズンとなった。なおTTF1クラスでは永井康友が、250ccクラスでは難波恭司がランキング3位を決めている。

ていたの、素直に嬉しく思います」と明るい表情を見せた増田。ランキングも4位を死守し、復活に向けて大きな一歩を踏み出した。

なお、このレースでは'94YZZ50を駆る鈴木健二が大健闘。不運なエンストでテイチナーに表彰台は奪われたものの、第1ヒート5位、第2ヒート4位の総合5位に輝いた。



混戦の500ccクラスでも安定感の出た本間。真価は来シーズン発揮されそうだ

伊藤敦志選手、現役を引退 20年におよぶ選手生活にピリオドを打つ!!

全日本トリアル今季第6戦中部大会で、20年間の現役選手生活にピリオドを打ち、引退セレモニーを行った伊藤敦志選手。過去3回の全日本制覇と、名車TY250Rで一時代を築いた華々しい実績はまだ記憶に新しい。第二のトリアル人生を踏み出した伊藤選手に、現在の心境を聞いてみた。

長い間お疲れさまでした。20年の現役生活の中で、最も思い出深い大会は?

「87年に初めて全日本タイトルを決定した宮ヶ瀬大会ですね。長年の夢だったチャンピオンが優勝という形で実現できて本当に嬉しかったです。84年のA級初優勝の時は、ヤマハの人たちが喜んでくれて、勝つことの素晴らしさを教えてもらいました。これがプロ転向のキッカケにもなったので、違う意味で印象に残っています」

印象的なマシンは?

「91年型のTY250R改(OW91)です。あれは自分の集大成のようなマシンでした」

伊藤選手の最大のライバルは?

「山本昌也選手ですね。彼が目標だったし、彼に勝つために努力しました。88年にV2を達成してからは、自身もライバルでしたけれども」

引退を考えたのはいつですか?

「成田匠選手に負けた時、時代の変



選手生活最後のトリアルは見事クリーン。大会後には歴代の全日本チャンプから花束が贈られた

化を意識しました。ただ、直接的には91年の最終戦、バンクで中川義博選手にタイトルを奪われてしまった大会です。あれから勝つ意欲や集中力を欠いてしまったのかもしれない」

今後の活動を教えてください。

「自分と同じ道を目指す若い世代のバックアップと、トリアル界の発展に力を注ぎます。具体的にはスクールの開催やチーム運営ですね。ただ自分は一生トリアルライダーであり続けるつもりです」

それでは最後にファンの方へメッセージを。

「トリアルは奥の深いスポーツです。趣味として付き合う人は遊び心を忘れず、競技志向の人は努力を惜しまず練習してください。それから、長い間たくさんのご声援ありがとうございました。今後は新しい目標に向けて努力したいと思います」

全日本モトクロス選手権・第12戦MFJグランプリ

ました!!



世界選手権ロードレース 世界を制す

片山敬済以来16年ぶり、原田哲也が世界チャンピオンに輝く

全日本ロードレース選手権

125ccクラスに異変

ヤマハにとって10年ぶりのTZ125が、加藤義昌の手で王座に



武者修業 AMAスーパークロス

大河原功次がAMAスーパークロスにフル参戦。総合26位



全日本トライアル選手権

市販モデルでタイトル

TY250Zのスタンダードモデルで、P・クドゥリエがV2達成

急成長の若手ライダーが各クラスで大健闘!!

10月31日、筑波サーキットで開催された全日本ロード最終戦を最後に今季レース活動の全日程を終えたヤマハチーム。今シーズンも原田哲也選手の世界グランプリ制覇、TZ125の復活を印象づける加藤義昌選手の全日本タイトル獲得など、国内外で大きな成果を挙げることができた。

例年、いち早くモータースポーツシーズンの開幕を告げるAMAスーパークロスには、ヤマハ期待の若手、大河原功次選手がフルエントリー。全16戦に出場して決勝進出6回、17ポイントを獲得して総合26位にランクされる大健闘を見せた。

この成績は'93年度のデビューライダーによって争われるプロアマクラスで4位のポジション。単身乗り込んだ本場アメリカの武者修業で、大きな自信を身につけての帰国となった。

同じように今シーズン初めての海外遠征を試みたのは、全日本モトクロスの中堅ライダー、川崎智之選手。「30歳まで第一線で活躍できる技術と精神力を体得するため」開幕前からヨーロッパに渡り、世界選手権モトクロスにフルエ

ントリーした。現地ではトップライダーの実力に圧倒されながらも、最終戦には18位の成績を残している。川崎選手が出場した世界選手権モトクロスでは、ディフェンディングチャンピオンのドニー・シュミット選手が3度の総合優勝を含む447ポイントを得た。惜しくもV2は逃がしたものの、シリーズランキング3位を獲得。

一方、ロン・ティチナー選手(スズキ)とエディ・ウォーレン選手(カワサキ)の両外国人VS日本人選手という構図に終始した全日本モトクロスは、ヤマハYZ250に乗る若手選手が大健闘。チームYZの鈴木健二選手や田島久選手、さらには村橋健太郎選手らの台頭が目立ったシーズンだった。中でも今シーズンからワークスチームに加入した増田智義選手は、シーズン中盤のケガで数戦を欠場したにもかかわらず、開幕戦の優勝などかかせいだアドバンテージを守り抜いて見事ランキング4位を獲得。来シーズンはヤマハチームの中心ライダーとして、大きな飛躍が期待されている。

また、全日本トライアルではヤマハに移籍したチャンピオン、パスカル・クトゥリエ選手が全戦を市販モデルのTY250Zで戦い、7戦中優勝3回、2位4回の好成績でV2を決定した。なおクトゥリエ選手がチャンピオンを決めた第6戦では、今シーズン限りで現役を退いた伊藤敦志選手の引退セレモニーも行なわれた。

モータースポーツ'93シーズンを振り返る ご声援ありがとうございました

モータースポーツ'93シーズンを振り返る
ご声援ありがとうございました



全日本モトクロス選手権
ヤングパワーの台頭

ベテラン勢をしのぎ、
増田智義が大活躍。ラ
ンキング4位を獲得



全日本ロードレース選手権
3年目の正直

K・マギーの穴を埋めた本間
利彦は、転向3年目でクラス
2位

全日本ロードレース選手権
年間最多勝
永井康友のシーズン通算4勝は、TTF
1クラスの最多勝利



全日本トライアル選手権
最後のクリーン

トライアル界の雄、
伊藤敦志が引退。
最後のトライをク
リーンで決める

歴史的な原田のタイトルと W・レイニーの不運

ロードレース部門でも収穫の多い年だった。まず全日本ロードでは、10年ぶりに復活したTZ125をSP忠勇RTの加藤義昌選手が走らせ、記念すべきカムバックイヤーにチャンピオンを獲得。導入目となった市販レーサーTZ125の発売に華を添えた。

一方500ccクラスでは、開幕戦で同クラス初優勝を果たした本間利彦選手がシーズンを通して波に乗り、ランキング2位に入る活躍を見せた。また来シーズンからスーパーバイクへの移行が決定しているTTF1クラスでも、ワークスYZFを駆るスペシャリスト永井康友選手が年間最多の4勝を挙げて総合3位に入った。しかし、なんと言っても今シーズン最大のニュースは原田哲也選手のワールドチャンピオンの獲得だ。

'92年、念願の全日本チャンピオンに輝いた原田選手は、かねてからの夢であった世界GP出場を実現。1年目の今シーズンはイタリアに本拠地を置くバレッジチームからエントリーしていた。

開幕タッシュを見た原田選手は、一時2位以下に45ポイントの差をつける快進撃を見せていたが、後半に入ると不運なケガが続いてロリス・

カピロッシ選手（ホンダ）が逆転、チャンピオン獲得を絶望視する声さえ聞かれた。

そして迎えた最終戦のFIM・GP。10ポイント差でカピロッシ選手を追う原田選手は、慎重なスタートから徐々にポジションを上げて24周目にトップへ浮上。そのままチェッカーを受け、このレースで5位のカピロッシ選手を再逆転し、日本人として16年ぶりの世界チャンピオンに輝いた。

しかし、一方でV4を目指していたGP1クラスのウェイイン・レイニー選手が、イタリアGPで転倒。重大なケガを負うという思わぬアクシデントに見舞われた。レイニー選手は現在カリフォルニアでリハビリトレーニングを続けているが、全面的な回復にはまだ至っていない。

◆ 原田選手のタイトルと、レイニー選手のアクシデント。この明と暗が同時に起こった'93シーズンは、ヤマハモータースポーツ史にとっても深い意味を残す年であった。
一年間、ヤマハチームへのご声援ありがとうございました。

ひと味ちがったライダーのお祭り 4メーカー合同“二輪ピック”は 爽かなニューウェーブ



今

どのメディアを見ても暗い話ばかり。商売やっつけていても、なんとなく逃げ腰になってしまふ経営者は多いことだろう。でも、バイクショップに限らず不安顔とヤル気顔では、日ごとに商売として大きな差が生まれてくる。そして店の雰囲気は声の張り、目の輝き、しばらくするとそ敏感なお客さまに伝わり、しばらくするとそれがお店のイメージとして定着し、良かれ悪しかれイメージが一人歩きするようになる。もしも、イメージが悪い方に進んでいったのではたまったものではないが、ちよつとした油断でそれまでの努力が一瞬にして泡のように消え去ることは多々ある。だから、日々の商売の心がけが非常に重要になるわけだが、ともあれ絶対になくしてはならないこと、それはマイナス指向よりも、プラス指向ですべてを考へることだ。何でも肯定的にとらえて血として肉にするしたたかな

去

8月1日〜2日にかけて広島県グリーンパーク弘楽園で行なわれた自工会主催のバイク4メーカー合同の「サマーフェスティバル「NIRINPIC」夏のバイク祭り」こそプラス指向でとらえるべき典型的な例といえるだろう。ヤマハにはYESが、ホンダにはHARTがあり、スズキはJAJAUMA・CLUB、カワサキにはKAZEがある。それぞれが独自にイベントを開催していた。従来型の開催には小さなまとまりとして、それなりの良さがある。でも、会員側にして

プラス指向が、人やショップを活性化させ、結果としてお客さまに夢を手えるのだ。

みればいつもの顔ぶれが揃い、イベントが盛り
フレインされがちで若干のマンネリズムも同
時に感じ取っていたはずだ。イベント参加に
熱心な会員はよけいそんな風に感じられたこ
とだろう。

だ

が、今回のように4メーカーの組織
が一堂に会してイベントを行なえば、
各組織に新しいウエーブが生まれる。
各社がそれぞれにアイデアを出し合い、その
アイデア提示がお互いを刺激しあうと、さら
に斬新なアイデアが生まれてくる。逆に欠落
している部分に気がつくこともある。

「自分たちのこれまでの視野は狭かったと思
います。趣味の道具であるバイクは最終的に
はメーカーという枠をこえてユーザーの方々
の満足の最大化を目指さないとけない。4
社が合同でやれば今までとは比較にならない
ぐらいの盛り上がりになりましたし、今後は
さらに内容アップしますので期待していただ
きたいですね。また、お客さまだけでなく、
ショップの方々にも大きな刺激になったので
はないでしょうか」

この大会の幹事役を務めたヤマハのSさん
の熱の入った言葉だ。また、この大会に参加
したある販売店のご主人は、
「今までは隣のYSPチームと勝った負けた
をやっていたけれど、今度は白が勝つか他のフ
色が勝つか、っていうヤマハファン対他のフ
アンという大きな枠で応援してしまおうから、
見ていてもドキドキしましたね」と好評。



ショップのご主人がドキドキしなければお
客さまに「ドキドキ」を伝えられるはずがな
い。また、他の販売店では、
「他のショップのまとまり具合を見ている
とレースの勝ち負けよりも、チームの和とい
う魅力を感じましたね」
というように他のショップのさまざまなノ
ウハウを勉強しあう場にもなるというわけだ。
もちろんメーカー系列という枠をこえて他の
ショップの欠点を自分の反省材料にすること
もできる。

た

だ、そんな販売店経営のノウハウも
大切だが、純粹にバイクの楽しさを、
真正面から見つめ直すことが、なに
よりも4社合同開催の最大の目標ではないだ
ろうか。自分たちの知恵でとことん楽しめる
内容にすれば、もう言葉など要らない。態度
で多くは伝わってしまうことのシンプル
走って、泣いて笑ってしまうことのシンプ
ルさが、本当のカッコ良さであることを今の時

代の若者たちは、ちょっと照れながらちゃん
と見届けているものなのだ。
今後はこのような活動が増えるだろうし、も
より洗練された大会へと進化するだろう。も
ちろん、各社単位のイベントは4社合同イベ
ントの長所をフィードバックして、さらに魅
力的な内容になるはず。ただし、4社合同や
各社のイベント開催に頼るだけではネクスト
はない。

自らのショップで、それを栄養にして新し
い可能性にチャレンジすることが不可欠。ジ
ツと待っているだけではチャンスは訪れない
し、攻撃こそ最大の防衛、ともいうではないか。
バイク業界を活性化できるかどうかは、結
局のところバイク専門店の双肩にかかってお
り、ひとつひとつの可能性をプラス指向で大
切に育てることが今の時代にこそ必要だな
と痛感している。

文/柏秀樹(モーターサイクルジャーナリスト)

スクーターに新風 登場間近!! ジョグアップリオ

スクーター需要の大半を占めるスタンダードクラス。このクラスに乗る客層は、その使用実態からコスト本位の物選びを行なっているように思われがちですが、グラフでも解るように現実には使用用途と機能を冷静に判断し、しかもスタイリングとのバランスを高次元で求めています。いわば、スクーターは毎日使う足、もっ

と便利に、もっと経済的に」といった欲求を潜在的に持っている訳です。こうした彼らの声から生まれたジョグアップリオは、説得に十分なセールスポイ

ントが満載。確実な商品性のご理解と適切なターゲットへのアプローチで、'94市場に大きな成果を残してください。(商品の詳細は巻末のカラーページにあります)

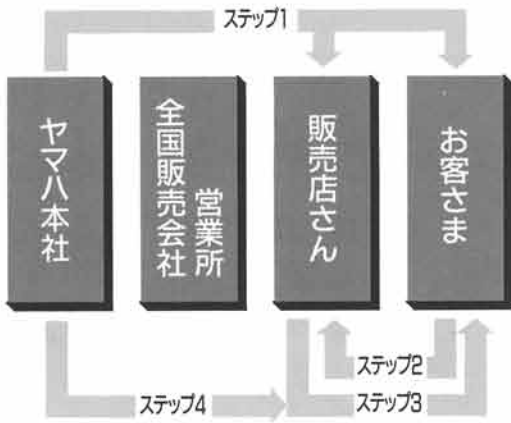
て、ヤマハの主要スクーターを対象としたプレミアムキャンペーンを展開します。告知はマス媒体、お客さまの接点はもちろん店頭です。

売るための具体策

ステップ3…発売に合わせた導入期と、キャンペーン開始に合わせた拡販期の2本立ての構成です。導入期は知名度アップと機能訴求を兼ねた店頭POPの充実を、そして拡販期にはマスキャンペーンと連動したキャラクターを活用した話題性あふれる店頭演出を行ないます。

ステップ4…このステップこそが「ジョグアップリオ」導入の最大のポイント。サイレントマジョリティーと呼ばれる幅広い客層がターゲットとなるだけに、店頭での接客機会が最大のセールスチャンスです。セールストークに直結する数多くのフィーチャーを持つジョグアップリオの拡販は、まず徹底的な商品理解と「売る気」が一番。ヤマハ本社から販売会社、そして営業所セールスマンから販売店のみなさんまで、一貫した商品理解のための活動がすでに開始されています。

プロモーションの仕組み 売るための4つのステップ



売りやすい環境づくり

ステップ1…お客さまにジョグアップリオの名前と商品をしつかりと覚えていただくためのマスキャンペーンです。開始の時期はもっとも市場が盛り上がる春需に合わせて2月から。ヤングから中年層まで知名度の高い「天才バカボン」ファミリーをキャラクターに、雑誌を中心に集中的な広告展開を図ります。

ステップ2…来店促進と成約率のアップ、そして何より話題の盛り上げを目的に、広告と連動のキャラクターグッズを使っ

スタンダードクラスに乗るお客さまの要望
 複数回答(ヤマハ調べ)



それぞれのツールの役割を シッカリとご理解ください

ここでは商品理解からマスプロモーションまで系統的に解説するために、ステップ4から順を逆にして説明させていただきます。

ステップ4

商品理解のために

まずは店主さんの商品理解のために、「セールsgガイド」を用意しました。この小冊子はジョグAprioの機能性を想定されるターゲット層別に整理し、各層のスクーターに対する要望に合わせて解説。そのままセールストークとして活用できる構成となっています。店頭でのジョグAprioへのスイッチングのためのアプローチブックとして、ぜひご活用ください。



▲セールsgガイド

また、お客さまとの間に生じるセールス機会は、商品知識を活かす場であると同時に活かしたセールストークを収集する場でもあります。ぜひ現場で収集した「生の声」で商品をアピールしてください。スタンダードクラスに乗るお客さまは、そのほとんどが店頭で商品を選択しています。

ステップ3

誘店のキッカケづくり

導入期のアプローチの目玉は、まず有力見込客への発売DMです。ヤング中心主婦中心、社会人中心と、それぞれのタ

▲導入期用発売DM

ーゲット層に合わせて3種類を作成。各層の要望に対するジョグAprioの回答を、それぞれの層の言葉で解説。代替期ユーザーの関心を大きくひくくことはもちろん、直接購入予定のないお客さまをも、有力オビニオンリーダーへと育てます。顧客リストの洗出しとともに、有効なご活用をお願いします。

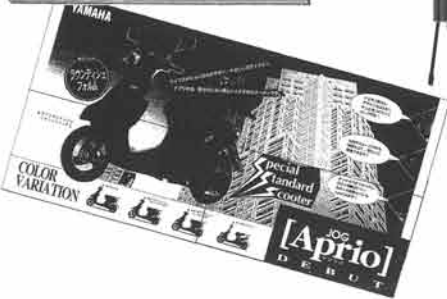
また、本体まわりのPOPとして、スベックボードやハンドルPOPを用意。ハンドルPOPは正面から見ると新登場を訴え、本体に跨がって見ると各ワイヤーの解説が読める工夫が施されています。この他には店舗用ウィンドステ



▲ハンドルPOP(表)



▲ハンドルPOP(裏)



▲春キャンペーンPOP店頭展開例



▲導入期POP店頭展開例

ツカーやノボリが用意されます。さらに春のスクーターキャンペーン開始以降は、キャラクターの全面展開により、店頭話題性を添えます。

ステップ2
 誘店のキッカケづくり

ヤマハの主要スクーターを対象とした『春のスクーターキャンペーン』の一環として行なう誘店策です。

キャラクターグッズによる来店プレミアムや購入プレミアムキャンペーンを展開します。天才バカボンファミリーのゆかいでホノボノとしたキャラクターたちが、最大の話題。マス広告との相乗効果により、シヨグアプリオの話題を大きく喚起します。また、お店独自のオリジナルセールとの連動も容易です。

ステップ1
 広く社会へ認知率アップ

一般社会の知名度アップに欠かせないマス広告については、スクーター最大の需要期である春需要に合わせて、2月と3月の2ヵ月間に渡り、一般雑誌やマンガ誌を中心に集中展開します。

キャラクターは「天才バカボン」とその家族。起用の理由としては、幅広い知名度を持つことと、各層から高い好感度を得ていることからです。左表にもありますが、昨年の総合嗜好調査での支持率が13・7%。この数字を最近話題のマンガと比較すると「課長 島耕作」「白鳥麗子」でございませうが11・3%、人気のサッカーを題材にした「キャプテン翼」が6・2%。「ゲゲゲの鬼太郎」が12・6%といった具合です。

また、天才バカボンはシヨグアプリオの主要ターゲットとして想定される10代、20代の女性と20代の男性から特に高い好感度を得ています。

誰でも知ってるキャラクター
(記号性：イメージのし易さ)



ファミリー的～温かさ、ほのほのさ



▼来店プレミアム各種



(おまわりさん)
 交通安全キーホルダー



ほうきパーツ



レレレの車上クリーナー

天才バカボン一家の好感度
(総合嗜好調査1992)

全体	13.7%
男性全体	13.7%
男性10代	16.7%
男性20代	19.8%
女性全体	13.6%
女性10代	22.0%
女性20代	17.0%

シリーズ史上、最大のメジャーチェンジ完遂。みんなの声から生まれた

ヤング中心のスポーツクラスと呼ばれるスクーターユーザーに比較して、一見地味に見えるスタンダードクラスのお客さまたち。見掛けの派手さに惑わされない物選びから彼らの選択基準は「走ればいい、安ければいい」そんな既存概念を生んだようです。

成熟市場と呼ばれ、需要の低迷が続くスクーター市場に一石を投じようと、ヤマハはまずこのクラスのメンテナンスから着手しました。需要層が広く、単一的な傾向や要望の把握が難しいスタンダードクラスのニーズの収集は、徹底した市場調査と分析でした。限られた車格の中に、要望のすべてを詰め込むことは並大抵の作業ではありません。しかし、この車格の中で回答を出すことが'94市場に対する、またヤマハを応援してくださるみなさんに対するメーカーの義務と受け止めました。

結果、ほぼ100%の内容に仕上がったと自負しています。ヤマハ自信の1台、どうぞ積極的なご拡販、よろしくお願いたします。

カラーリング：ブラック2、シルキーホワイト、ダークグレイッシュシアンメタリック1、ダークグレイッシュブルーメタリック8、ダークバーブリッシュレッドカクテル2

JOG Aprio

アプリオ

メーカー希望小売価格：¥142,000(北海道、沖縄および一部離島を除く)
※価格には保険料、税金(含む消費税)、登録にともなう諸費用は含まれません。

12月3日新発売

SPECIFICATIONS

- 全長1615mm ●全幅630mm ●全高1000mm
- シート高715mm ●軸間距離1135mm ●乾燥重量11kg ●舗装平坦路燃費68km/ℓ (30km/h) ●エンジン空冷・2サイクル・クランク室リードバルブ・単気筒・49cc ●内径×行程40.0×39.2 ●圧縮比7.3:1 ●最高出力6.8ps/6,500rpm ●最大トルク0.75kg^m/6,000rpm ●始動方式セル・キック併用
- 燃料タンク容量6ℓ ●変速機形式Vベルト自動無段変速 ●タイヤサイズ80/90-10(前)80/90-10(後) ●ブレーキ形式ドラム(前)ドラム(後) ●懸架方式テレスコピック(前)/ユニットスイング(後)



ダークグレイッシュシアンメタリック1

※本体のカラーリングは、最近の乗用車に使用される色調を調査し、生活材としてもっとも好まれる色合いとして採用しました。



ダークバーブリッシュレッドカクテル2

ダークグレイッシュブルーメタリック8

シルキーホワイト

ブラック2

1 航続距離

現在、市場から求められているもっとも大きな要件“給油の手間”を半減しました。このための第一の改良点はエンジン。スクーター初のマイコン制御デジタル点火方式の採用により、実用モード走行(社内データ)で15~17%の燃費向上が図られるとともに、始動性も大幅に向上しています。また、従来3.5ℓであった燃料タンクを70%増の6ℓに変更。これに合わせて燃料計の精度もアップさせ、給油の省力化をより確実なものとした。



残量を正確に表示する燃料計

低速から高速まで最高の点火タイミングを維持するNewエンジン



クラスNo1容量の6ℓフューエルタンク



2 安定性

キャスト角やハンドルポジションの変更などにより、JOGならではのキビキビとした走りはそのままに、発進時の車体安定性を大きく向上させました。また、背中をまっすぐにして乗れるため、疲れにくい乗車姿勢も確保しています。さらに、形状変更で足着き性を向上させるとともに厚みを10mm増したシート。広くフラットなフットボードが、今までにない自由度の高い快適なライディングを約束します。



クッション厚を10mmアップさせて足着き性も向上させた



自由度の高いフラットなフットボード

お店にとっても魅力いっぱい

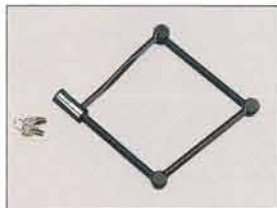
7 整備性を向上させた 7つのポイント

- ①ヘッドランプの使用電圧を13.5Vから12.8Vに変更し、倍以上のロングライフ化を図りました。
- ②フロントフォークのベアリングをリテーナー付きベアリングとし、フォーク交換時のボールのバラケを無くしました。
- ③メーターケーブル先端のなめを防止するため、防水策を徹底しサビによる回転フリクション発生の原因を断ちました。
- ④プラスチックパーツのツメ折れを防ぐため素材の堅いボディ側に穴、追従性の良いPP材にツメをつけました。
- ⑤キャブ回りの整備性向上を目的に、オイルタンク、バッテリーの配置を替え、メンテリッドも大型化
- ⑥ドロよけの先端部をソフトにすることで、割れに対応。多少のショックは吸収します。
- ⑦パーツの誤発注防止のため、カラーラベルをシート裏面に表示。本体の色が*特定できます。



ジョグアプリオ オプションパーツ一覧

ジョグアプリオをさらに便利に、さらにスタイリッシュに仕上げるオプションパーツ。本体とセットでおすすめてください。



サイクルロックFタイプ



サイクルロックSタイプ

名称	部品番号・小売価格・特長
NEW ウインドシールド	90793-53007 ¥8,900 専用タイプとしてフィット感を高めクリアな視界を確保しました。
NEW フロントバスケット	90793-50005(ブラック) 90793-50056(ホワイト) ¥3,400 新鮮なデザインと細かいメッシュを採用、車両にベストマッチングです。
リアバスケット	50M W0723-00(ブラック) 14T-W0723-00(ホワイト) ¥2,300 気軽に重宝、タウンユースのスクレモノです。
NEW バスケットネット	90793-66158(ブラック) 90793-66160(ワインレッド) ¥1,200 走行中の貴重品も安心。防犯上からも現代の必須アイテムです。
NEW バスケットロープ	90793-66162(ブラック) ¥500 荷物の出し入れが簡単、使い易さが身上です。
NEW シートカバー	90793-63030(ブラック/グレー) ¥1,900 ツートンカラーのシンプルなデザイン、個性派の方にお薦めします。
リアボックス	90793-5404B(ブラック2) ¥11,300 90793-540GE(シルキーホワイト) 90793-54121(ビビッドレッドカクテル1) 車両と同品質の塗装を施し、一体感を高めています。
NEW ハンドルグローブ	90793-62015(ホワイト/バイオレット) ¥3,300 ネーミングの通り、グローブの様にファッションなハンドルカバーです。 写真のスポーティータイプの外に、実用的なスタンダードタイプも用意しています。 90793-62010(ブラック) 90793-62011(ホワイト) ¥2,200
サイクルロック	タイプF=90793-66093 ¥5,200 タイプS=90793-66092 ¥6,200 見た目の頑丈さ同様高度な耐破壊強度をもつ、盗難防止機の一級品です。 車両に専用収納部を設けてあり、携帯に便利です。

Standard=ふつう “ふつ” ヤマハが考える“ふつう”は、すべてに 気が利いています。

3 収納性

シート下のトランクスペースは、XLサイズフルフェイスヘルメットを楽に納める大容量6ℓ。しかも盗難防止用“サイクルロック”をすっきり納めるスペースを底面に確保した他、形状の工夫によりA4判のハードバインダーも曲げずに収納することができます。また、小物の収納に利用頻度の高いフロントラックも、居住性を損わずに1.5ℓペットボトルがスッポリと入る6ℓ。上部には便利なコンビニックも装備しています。



XLサイズフルフェイスヘルメットも楽に収納

トランク底面にスッポリと納まるサイクルロック専用のスペース

ペットボトルを入れてさらに余裕のフロントラック。上部には買物袋が掛けられるコンビニックも



4 装備



ハンドルスタンディング

クラス初のメインスイッチ操作のシートオープナーを装備。キーの差し替が不要で、エンジンをかけたままトランクスペースの開閉ができます。また、オイル給油口をサイドカバー部に設置することでオイルの補充を容易にするとともに、トランク内へのオイルこぼれを防止します。

この他にもハンドルスタンディングの装備、雨やホコリからロック機構を守るスライド式キーキャップ付フューエルタンクキャップ、プッシュキャンセルウィンカースイッチ、配光性の良いスクエアタイプヘッドライトなどなど、セールストークに直結するうれしい装備が満載です。



プッシュキャンセルウィンカースイッチ



スクエアタイプヘッドライト



サイドカバー部オイル給油口



スライド式キーキャップ付フューエルタンクキャップ



メインスイッチ操作シートオープナー

ここにもヤマハ

We Love Yamaha



中国のスター的存在 人気沸騰モーターサイクル 雅馬哈SRZ125

市場主義経済の導入により経済成長めざましい中華人民共和国。なんとと言っても人口約12億人（'92年末現在。台湾、香港、澳門（マカオ）を除く）をかかえる中国は、日本はもとより世界各国にとって魅力ある一大経済市場といえるだろう。

ヤマハも1979年に、広州交易会場で独自の展示会と技術交流会を開催。それを機に着実に関係は深まり、'92年10月にはヤマハの技術提携先である建設機床廠（重慶市）との間で、モーターサイクルの製造・販売を行なう合弁会社「重慶建設・ヤマハモーターサイクル有限公司」設立の調印を行なうまでに至っている。また本年10月には中国南方航空動力機械会社と「株洲南方ヤマハモーターサイクル有限公司」設立の調印を行なった。

そうした関係をさらに深めたのが今年5月、4日間に渡って行なわれた「SRZ125」の試乗会だ。会場となったのは南シナ海に面した広東省の順徳市と仏山市。SRZは2カ月前に発売されたばかりで、しかもイメージキャラクターに、大スター劉徳華^{リョウデツカ}を起用。これがズバリ当たり、SRZは劉徳華と呼ばれ、大人気モデルとして注目されてい

た。その劉徳華、いや、SRZがやってくる！かくして2カ所の試乗会に集まった観客、約11,000人。当日は、無料点検やトライアルアトラクションも行なわれ、ウイリーにスタンディングスタイルにどっと歓声が上がリ試乗会の盛り上がりは、まさにヤマハここにありといった雰囲気。

地元広東省と北京テレビ、新聞などにこの模様はもちろん報道され、ヤマハのブランドが中国全土に流されたのであった。



YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社